

第 57 回 定時社員総会報告

第 57 回定時社員総会が、定款第 5 条に基づき全会員の選挙によって選出された代議員によって、令和 6 年 6 月 18 日（火）14 時 30 分から、東京都千代田区の都市センターホテルにおいて開催された。

定刻、西山会長は定款第 17 条の定めにより議長に就任し、出席代議員は 72 名（うち委任状出席 38 名、議決権行使書出席 26 名）で、定款第 19 条の定めにより全ての議案について適法に成立する旨の報告を行い、本総会の開会を宣した。

議事に先立ち、議長は定款第 21 条第 2 項の定めにより、社員総会の議事録署名人に議長のほか理事 2 名を議場に諮って選出した。

引き続き、監事から監査の報告があり、また、議長から会計監査人から受けた監査報告について報告があった。

続いて、議長は本総会の目的事項のうち報告事項について一括して報告する旨を告げ、報告事項 1「令和 5 年度事業報告の内容報告の件」および報告事項 2「令和 5 年度計算書類の内容報告の件」について専務理事から、報告事項 3「令和 6 年度事

業計画の内容報告の件」および報告事項 4「令和 6 年度収支予算の内容報告の件」について、それぞれ担当副会長から報告があった。

引き続き、議長は本総会の目的事項のうち決議事項について一括して説明した後に決議に入る旨を告げ、第 1 号議案「理事 15 名選任の件」、第 2 号議案「監事 1 名選任の件」および第 3 号議案「名誉会員推挙の件」について、それぞれ担当副会長から説明があった。その後、議長が議場に質疑・意見を質し、出席した会員が意見を述べた後、決議に入った。まず、第 1 号議案「理事 15 名選任の件」について、本総会終結の時をもって理事 16 名が任期満了になることから、役員候補推薦・調整委員会から推薦された理事候補者 15 名について、議長が定款第 19 条第 3 項の定めにより候補者ごとに議場に賛否を求めたところ、候補者全員が原案どおり承認可決された。次に、第 2 号議案「監事 1 名選任の件」について、本総会終結の時をもって監事 1 名が任期満了により退任することから、役員候補推薦・調整委員会から推薦され、監事が同意した監事候補者 1 名について、議長が議場に賛否を求めたところ、原案どおり承認可決された。次に、第 3 号議案「名誉会員推挙の件」について、議長が候補者 6 名につき一括して議場に賛否を求めたところ、原案どおり承認可決された。

以上をもって、第 57 回定時社員総会の議事はすべて終了し、閉会した。

令和 5 年度事業報告、同計算書類、令和 6 年度事業計画、同収支予算の概要は、以下に記載のとおりである。（注：計算書類の貸借対照表内訳表、正味財産増減計算書内訳表、財産目録については、ホームページをご覧ください。）

また、社員総会終了後に臨時理事会を開催し、会長、副会長（2 名）および専務理事を選定した。令和 6 年度の役員は左記のとおりである。

なお、社員総会終了後、引き続き同会場において、名誉会員称号の贈呈、2024 年日本コンクリート工学会賞の贈呈、同賞作品賞受賞作品のプレゼンテーション、特別講演および懇親会が行われた。

*

令和 5 年度事業報告の概要

I 会務運営

1. 総 会

第 56 回定時社員総会を令和 5 年 6 月 22 日（木）14 時 30 分から、東京都千代田区の都市センターホテルにおいて開催し、下記の議案を付議した。出席代議員数は 73 名（うち委任状出席 36 名、議決権行使書出席 27 名）で、定款第 19 条第 1 項に定める定足数（総代議員数 74 名の過半数）を充足しており、社員総会が成立した。

- 1) 令和 4 年度事業報告、同計算書類、令和 5 年度事業計画および同収支予算を報告した。
- 2) 任期満了、辞任および逝去に伴う理事の選任については、原案どおり理事 14 名を承認、可決した。
- 3) 任期満了に伴う監事の選任については、原案どおり監事 1 名を承認、可決した。
- 4) 6 名に名誉会員の称号を授与する提案を、原案どおり承

令和 6 年度役員（理事：五十音順）

役職名	氏 名	勤 務 先
会 長	前川 宏一	横浜国立大学
副会長	内田 裕市	岐阜大学
〃	黒岩 秀介	大成建設(株)
〃	田中 久順	UBE 三菱セメント(株)
〃	野口 貴文	東京大学
専務理事	入矢桂史郎	(公社)日本コンクリート工学会
理 事	阿波 稔	八戸工業大学
〃	井上 真澄	北見工業大学
〃	鹿毛 忠継	(国研)建築研究所
〃	椋山 健二	芝浦工業大学
〃	河合 研至	広島大学
〃	岸 秀樹	旭コンクリート工業(株)
〃	楠 浩一	東京大学
〃	國枝 稔	岐阜大学
〃	神代 泰道	(株)大林組
〃	河野 進	東京工業大学
〃	小林 孝一	岐阜大学
〃	鈴木 澄江	工学院大学
〃	瀧澤 明次	山宗化学(株)
〃	鶴田 浩章	関西大学
〃	西本 洋一	全国生コンクリート工業組合連合会
〃	古田 満広	香川県生コンクリート工業組合
〃	松井 淳	(一財)電力中央研究所
〃	松本 慎也	近畿大学
〃	安本 礼持	住友大阪セメント(株)
〃	山口 明伸	鹿児島大学
〃	横関 康祐	東洋大学
監 事	上田 洋	(公財)鉄道総合技術研究所
〃	野村 謙二	中日本高速道路(株)

認、可決した。

2. 理事会

(1) 定例理事会

定例理事会は合計8回ハイブリッド形式で開催した。主要な処理事項は、次のとおりである。

- 1) 令和4年度事業報告、同計算書類、令和5年度事業計画および同収支予算を審議・承認した。
- 2) 会員の入退会を承認した。
- 3) 2024年日本コンクリート工学会賞として、論文賞4件(受賞者17名:重複者含む)、技術賞3件(受賞者9名)、作品賞5件(受賞者30名)、奨励賞5件(受賞者5名)および功労賞11名を決定した。
- 4) 2023年度コンクリート技士・主任技士試験およびコンクリート診断士試験の合格者を決定した。
- 5) 任期満了に伴う次期役員改選数および候補者を決定した。
- 6) 名誉会員候補者、終身会員およびフェロー会員を決定した。
- 7) 2023年度助成金採択者を決定した。

(2) 臨時理事会

- 1) 臨時理事会を令和5年6月22日にハイブリッド形式で行い、内田裕市理事、黒岩秀介理事を副会長に、入矢桂史郎理事を専務理事に選任した。また、役員の会務担当を決定した。

(3) 電磁的記録による決議

電磁的記録による決議を9月および1月に実施した。処理事項は、次のとおりである。

- 1) コンクリート工学年次論文集 Vol.46 の投稿募集の投稿締切日を変更すること。
- 2) 激甚災害で被災された会員に対する会費を免除すること。

3. 支部長会議

支部長会議を令和5年10月6日、令和6年1月31日の2回開催し、各支部の事業計画、事業報告、収支予算等に関して審議した。

4. 登録関連事項

(1) 登記

- 1) 令和5年7月4日に、役員の変更登記(一部改選)および会計監査人の重任登記を完了した。

(2) 内閣府関係

- 1) 令和5年4月3日に、同一事業番号内における業務の一部入れ替えに係る変更届出書を内閣府に提出した。
- 2) 令和5年6月28日に、令和4年度事業報告および令和4年度財務諸表等の資料を内閣府に提出した。
- 3) 令和5年7月19日に、理事14名および監事1名の選任に係る変更届出書を内閣府に提出した。
- 4) 令和6年3月28日に、令和6年度事業計画および令和6年度収支予算書等を内閣府に提出した。

5. 委員会

委員会	委員長 (議長)	委員数	開催数*		メール 審議数
			委員会	WG等	
1. 役員候補推薦・調整委員会	杉山 央	16	2	-	2

2. 選挙管理委員会	宇治 公隆	12	1	-	0
企画調整部門					
1. 企画調整会議	西山 峰広	9	8	-	0
2. 支部長会議	西山 峰広	21	2	-	0
3. 企画・評価委員会	西山 峰広	8	0	-	0
4. 産業財産権検討委員会	草野 昌夫	9	0	-	0
総務・財務部門					
1. 定款・規則改定委員会	草野 昌夫	5	0	-	0
2. 総務財務委員会	草野 昌夫	8	4	-	4
3. 称号授与審査委員会	草野 昌夫	6	1	-	1
4. 助成金検討委員会	岩城 一郎	11	2	-	2
5. 助成金審査委員会	梅原 秀哲	12	2	-	0
学術・研究部門					
1. 研究委員会	楠 浩一	17	3	1	6
(1) 微視的機構に基づくコンクリート構造物中の内部膨張評価と予測に関する研究委員会	川端雄一郎	22	1	0	0
(2) セメント・コンクリートの環境影響評価に関する研究委員会	河合 研至	20	4	21	0
(3) コンクリート中の鉄筋腐食の統一的な取扱いに関する研究委員会	高谷 哲	17	4	55	0
(4) コンクリートにおける石灰石微粉末の実用性に関する研究委員会	瀬古 繁喜	19	2	5	0
(5) コンクリートのアカデミックデータベースの整理とAIへの活用に関する研究委員会	岡崎慎一郎	12	1	1	0
(6) コンクリート構造物の性能評価型耐震設計法の日米比較に関する研究委員会	塩原 等	21	2	9	0
(7) 構造性能に主眼を置いた鋼材腐食性状の診断・推定手法に関する研究委員会	大下 英吉	21	3	12	0
(8) コンクリート用自己治癒材の効果とその評価方法に関するFS委員会	河合 慶有	17	1	10	0
2. 国際委員会	濱田 秀則	12	3	-	8
(1) ACF(アジアコンクリート連盟)対応委員会	長井 宏平	13	1	-	0
(2) JCI-ACI Collaboration Committee	三木 朋広	10	2	-	0
3. 図書編集委員会	河合 研至	4	1	-	6
(1) コンクリート工学編集委員会	前田 匡樹	36	12	17	0
(2) 文献調査委員会	田島 祐之	22	10	15	1
(3) コンクリート工学論文集編集委員会	湯浅 昇	20	6	2	1
(4) ACT 編集委員会	丸山 一平	19	4	-	3
4. コンクリート工学年次大会委員会	内田 裕市	11	2	-	7

(1) コンクリート工学年次大会 2023 (九州) 実行委員会	濱田 秀則	74	1	9	0
(2) コンクリート工学年次大会 2024 (松山) 実行委員会	上田 隆雄	60	1	14	0
(3) コンクリート工学年次大会 2025 (盛岡) 実行委員会	石川 雅美	87	0	3	0
(4) コンクリート工学年次大会 2026 (近畿) 実行委員会 (仮称)	鎌田 敏郎	1	0	0	0
(5) コンクリート工学年次論文査読委員会	濱田 秀則	45	3	2	0
5. 学会賞選考委員会	内田 裕市	21	3	4	1
技術・普及部門					
1. 技術委員会	黒岩 秀介	12	2	-	3
(1) 危急存亡状態のコンクリート構造物対応委員会	岩波 光保	24	2	0	0
(2) コンクリート基本技術調査委員会	谷口 秀明	39	4	10	0
(3) マスコンクリートのひび割れ制御指針改訂原案作成委員会	溝渕 利明	26	2	11	0
2. 標準化委員会	黒岩 秀介	10	2	-	6
(1) 規準・指針管理委員会	内田 裕市	9	3	-	1
(2) コンクリート試験方法 JIS 原案作成委員会	陣内 浩	31	1	5	3
(3) ISO/TC 71 対応国内委員会	野口 貴文	92	4	25	54
(4) カーボンリサイクル評価方法の JIS 原案作成委員会	野口 貴文	32	4	12	7
(5) 再生骨材に関する JIS 改正原案作成委員会	野口 貴文	27	0	0	2
3. 広報委員会	黒岩 秀介	9	2	-	4
(1) 情報コミュニケーション委員会	兼松 学	14	5	1	2
(2) JCI 創立 60 周年記念事業実行委員会	大久保孝昭	29	2	2	0
4. 普及委員会	黒岩 秀介	10	2	-	1
(1) コンクリート技術講習委員会	山口 明伸	14	1	2	0
(2) マスコンクリートソフト普及委員会	石川 雅美	26	2	5	0
(3) コンクリートのひび割れ調査、補修・補強指針普及委員会	鎌田 敏郎	27	0	4	0
(4) コンクリート構造物の長期性能シミュレーションソフト普及委員会	山口 明伸	14	1	1	0
資格付与部門					
1. 資格・講習委員会	大久保孝昭	13	2	3	5
(1) コンクリート技士試験委員会	宮澤 伸吾	32	2	22	0

(2) コンクリート技士研修委員会	陣内 浩	25	2	1	0
(3) コンクリート診断士講習委員会	濱崎 仁	21	1	3	0
(4) コンクリート診断士試験委員会	今本 啓一	46	2	38	0
(5) コンクリート診断士研修委員会	小山 智幸	20	1	8	0
計		1320	141	333	130
			474		

* 「-」は該当する会設がないことを示す。

II 公益目的事業

[公1 コンクリートに関する調査研究事業]

1. 調査研究事業

(1) 研究専門委員会

- 1) JCI-TC 211 A 微視的機構に基づくコンクリート構造物中の内部膨張評価と予測に関する研究委員会

(令和 3～5 年度)

本研究委員会は、ASR や DEF の微視的機構、またミクロな膨張圧生成プロセスとマクロな構造物の劣化プロセス両者の相互影響を検討し、微視的機構に基づいたコンクリート構造物中の内部膨張の評価と予測に関する数値解析モデルや実験・分析手法を整理することを目的とし、令和 3 年度から 4 年度まで活動した。令和 5 年度は、これまでに検討してきた内容を報告書としてとりまとめ、成果報告会および一般講演からなるシンポジウムを開催した。

- 2) JCI-TC 221 A セメント・コンクリートの環境影響評価に関する研究委員会

(令和 4～6 年度)

本研究委員会は、セメント・コンクリートの環境影響を多角的な視点から総合的かつ統一的に評価する手法を構築することを目的とする。具体的には、コンクリート構成材料、コンクリートおよびコンクリート構造物等の環境影響評価のモデルケースを構築し、一般に広く提供することを目指す。令和 5 年度は、前年度までの活動成果を踏まえ、インベントリデータを整備したモデルケースの環境影響算出ツールを作成するとともに、土木構造物および建築物を対象としたいくつかのモデルケースを取り上げて環境影響評価を実施し、セメント・コンクリート分野における環境影響を評価する現実的かつ妥当性のある手法を提示することができた。

- 3) JCI-TC 222 A コンクリート中の鉄筋腐食の統一的な取扱いに関する研究委員会

(令和 4～6 年度)

本研究委員会は、コンクリートに作用する水が腐食に与える影響について整理し、鉄筋腐食を統一的に取扱うためのシナリオを作成することを目的としている。令和 5 年度は、前年度に引続き、文献調査 WG (WG 1) と構造物調査 WG (WG 2) の 2 つの WG を中心に活動を行った。WG 1 では、文献調査および基礎実験を行い、特に腐食の進行過程において重大な影響を与える水の影響を酸素存在とともに整理した。また、コンクリート中の酸素拡散限界電流密度についての検討を行った。構造物調

査 WG (WG 2) では、鉄筋腐食を生じている実物大試験体や、実構造物において各種測定を実施し、コンクリートの状態や腐食の程度、水の供給経路などを調査した。これら 2 つの WG 成果を元に、腐食の取扱い体系化 WG (WG 3) では、水と酸素の供給状況により腐食のリスクを評価する手法を提案するための議論を行った。

4) JCI-TC 231 A コンクリートにおける石灰石微粉末の実用性に関する研究委員会 (令和 5～6 年度)

本研究委員会は、石灰石微粉末をコンクリート分野で積極的に活用していく上で、利用者等に適切な情報を提供することを目的とし、情報のとりまとめや実験検討による効果の確認を行う。令和 5 年度は、石灰石微粉末の使用実績等に関するアンケートを広く実施するために、アンケート項目と想定される回答について検討を行い、アンケート内容がほぼ確定した。また、石灰石微粉末の環境負荷低減効果、海外・国内のセメント規格における石灰石微粉末の位置付け、人工炭酸カルシウムの開発事例等に関する調査計画を立案した。また、コンクリート製品での打ち肌面に関する実験計画を検討した。

5) JCI-TC 232 A コンクリートのアカデミックデータベースの整理と AI への活用に関する研究委員会 (令和 5～6 年度)

本研究委員会は、コンクリート構造物に関する実務での設計や維持管理体系の高度化に対し、今後活用が期待される AI・機械学習技術の利用を促進させることを目的として、コンクリートの材料および構造両面でのビッグデータの収集方法の構築と、AI・機械学習への活用方法の提案を行う。令和 5 年度は、「材料関連データベースの活用 WG」「構造関連データベースの活用 WG」「画像診断データベースの活用 WG」の 3 WG にてそれぞれ文献の調査を行った。

6) JCI-TC 233 A コンクリート構造物の性能評価型耐震設計法の日米比較に関する研究委員会 (令和 5～6 年度)

本研究委員会は、我が国における建築・土木構造の構造設計実務において、非線形時刻歴地震応答解析が用いられる耐震設計のための制度や基準の現状、およびその活用方法について、国際的な観点から米国との比較を行い、我が国の将来の課題の抽出と解決策の提案を行うことを目的としている。特に、非線形動的解析を用いる耐震設計においては恣意性が入りやすく、構造設計者は、社会と建主に設計の妥当性の説明責任をどのように果たしているか、技術の透明性が、どのように確保されているかの違いにも脚光をあてる。令和 5 年度は、米国コンクリート工学会 ACI 374 委員会とヴァーチャルミーティングを開催し、日米が同一の平面と立面を有する鉄筋コンクリート 10 層建物の非線形時刻歴応答解析による試設計とその比較を行うことで合意した。その後試設計 WG で設計作業を実施した。さらに、令和 6 年 6 月に松山で対面による日米ワークショップを開催するための計画の立案と準備を行った。

7) JCI-TC 234 A 構造性能に主眼を置いた鋼材腐食性状の診断・推定手法に関する研究委員会 (令和 5～6 年度)

本研究委員会は、現行の定期点検要領との接続を意識しつつ、また「鉄筋腐食したコンクリート構造物の構造・

耐久性評価の体系化研究委員会 (JCI-TC 112 A) 』で問題提起された内容を踏襲すべく、既存実構造物における腐食した鋼材の時空間で変化する腐食量を推定可能とする手法を提示することを目的としている。令和 5 年度は、鋼材腐食性状を評価可能とする現行の手法および研究段階にある手法と、それら手法の特徴などの洗い出しを行った。そして、それら手法の特徴を客観的観点から整理するために、各手法を本委員会委員が過去に作成した同一の試験体に適用し、その結果の整理を行った。さらに、現行の定期点検では必ず実施する基本的項目である目視によるひび割れ観察とその幅の計測結果を一つの指標として内部の鋼材腐食性状を評価する手法の文献調査を行った。また、これまでの各委員による RC および PC 実構造物の変形挙動に対する解析状況の情報共有を行い、その問題点等について議論した。

8) JCI-TC 235 F コンクリート用自己治癒材の効果とその評価方法に関する FS 委員会 (令和 5 年度 FS)

本 FS 委員会は、環境条件に応じた適切な材料選定や自己治癒材の適用性を整理し、その効果を実験室レベルで評価する方法、および供用中の構造物における評価方法を確立することを最終目標として活動を行った。1 年間の活動の結果、自己治癒材の効果の評価するためには種々の計測技術を組み合わせ、また時間軸を加味して評価項目と対応する計測技術、および結果の解釈を整理することが極めて重要であることが認識された。また、実環境を対象とした自己治癒材の効果と評価技術に関しては、共通試験を通じた実験的な検討により種々の自己治癒効果に対する計測精度の検証などが必要であるとの結論に至った。

(2) 技術専門委員会

1) 危急存亡状態のコンクリート構造物対応委員会

(平成 29～令和 8 年度)

本委員会では、共通試験 WG およびモニタリング WG を設置して活動を行った。令和 5 年度は、共通試験 WG では、端島 (通称、軍艦島) に様々な補修を施して暴露した鉄筋コンクリート試験体を対象に、「端島における補修材の効果検証に関する共通試験実施についての基本覚書」に則って、5 月および 11 月に上陸調査を行って、鉄筋コンクリートや補修材の劣化の進行状況を物理的および化学的な観点から調べ、その結果を基に補修効果の検討を行った。モニタリング WG では、10 月末～11 月初めに上陸調査を行って、30 号棟に設置したモニタリング設備の点検、ドローンによる点群データの収集による建物の劣化度調査を実施した。

2) コンクリート基本技術調査委員会 (常設)

本委員会では、コンクリート構造物における製造・施工に関する基本技術を調査し、広く社会に役立つ形で情報を発信することを目的として、令和 5 年度は「準備工」および「運搬」の 2 つの WG で調査活動を行った。準備工 WG では、建築工事における鉄筋施工の実状に関するアンケート結果について報告書として取りまとめ、「運搬 WG」では、運搬に関する Q&A を作成し、運搬に関するアンケート調査を行った。

3) マスコンクリートのひび割れ制御指針改訂原案作成委員会 (令和 4～7 年度)

本委員会は、「マスコンクリートのひび割れ制御指針」

の2025年改訂を目指して、その原案の作成を行うことを目的としている。令和5年度は、主な改訂項目の見直しを行い、現行指針を「本編」、「温度ひび割れ制御編」および「DEF ひび割れ防止編」の3編構成に変更すること、ひび割れ発生の照査対象を現行の温度ひび割れ指数からひび割れ発生確率に変更すること、設計用値の見直しを行うこと、および簡易評価式の全面的な見直しを行うこととした。また、これらを担当する各WGで改訂作業を行った。

(3) 支部研究委員会

- 1) (北海道支部) 寒冷環境下におけるコンクリートの品質・耐凍害性確保に関する研究委員会 (令和3～5年度)
- 2) (北海道支部) 時間軸評価に基づく北海道地域の構造設計に関する研究委員会 (令和4～5年度)
- 3) (東北支部) 表層品質評価委員会 (令和元～5年度)
- 4) (東北支部) 東北地方におけるコンクリート構造物の劣化進行に関する調査研究委員会 (令和4～5年度)
- 5) (中部支部) 小規模橋梁を対象としたコンクリート用DIY補修のあり方調査研究委員会 (令和3～5年度)
- 6) (中部支部) バサルト繊維の物性や活用の将来像に関する調査研究委員会 (令和5～6年度)
- 7) (中部支部) 中部地域の革新的コンクリート技術の拠点創造に関する調査研究委員会 (令和5～6年度)
- 8) (近畿支部) 百石齋(田邊朔郎書齋)調査委員会 (令和3～5年度)
- 9) (中国支部) RC構造物の微生物調査委員会 (令和4～5年度)
- 10) (中国支部) ジオポリマー硬化体の配調合調査研究委員会 (令和5～6年度)
- 11) (中国支部) 中国地方のコンクリート系建造物の調査研究委員会 (令和3～7年度)
- 12) (四国支部) 四国におけるコンクリート教育に関する研究委員会 (常設委員会)
- 13) (四国支部) コンクリート構造物の品質確保のための新技術開発と実践に関する研究委員会 (令和5～7年度)
- 14) (四国支部) コンクリート工の生産性向上のためのトラックアジテータ車の高性能化に関する研究委員会 (令和5～6年度)
- 15) (九州支部) セメント系材料の接合・接着部の性能に関する研究専門委員会 (令和5～6年度)
- 16) (九州支部) 九州に堆積する火山噴出物の活用方法に関する研究専門委員会 (令和4～5年度)
- 17) (九州支部) 非破壊試験による表層部コンクリートの品質評価に関する研究成果報告委員会 (令和5年度)

2. 標準化事業

(1) 規準・指針管理委員会

制定から5年経過した以下のJCI規準について改廃の可否を審議した結果、②についてはこのままJCI規準として維持することとした。また、①については一部改正が必要と判断し、原案作成者から提出された規準改正原案について「日本コンクリート工学会規準・指針の制定/改正に関する規程」に基づき審査を実施し、承認した。なお、令和5年度は指針原案の審査申請はなかった。

- ①JCI-S-014-2018 コンクリートの爆裂試験方法(改正後: JCI-S-014-2024)

- ②JCI-S-015-2018 小型容器によるコンクリートのブリーディング試験方法

(2) コンクリート試験方法JIS原案作成委員会

- 1) 以下のJISについて改正の可否を検討し、確認(改正不要)を判断した。

- ①JIS A 1101 コンクリートのスランプ試験方法
- ②JIS A 1105 細骨材の有機不純物試験方法
- ③JIS A 1111 細骨材の表面水率試験方法
- ④JIS A 1125 骨材の含水率試験方法及び含水率に基づく表面水率の試験方法
- ⑤JIS A 1127 共鳴振動によるコンクリートの動弾性係数、動せん断係数及び動ポアソン比試験方法
- ⑥JIS A 1129-1 モルタル及びコンクリートの長さ変化測定方法-第1部:コンパレータ方法
- ⑦JIS A 1129-2 モルタル及びコンクリートの長さ変化測定方法-第2部:コンタクトゲージ方法
- ⑧JIS A 1129-3 モルタル及びコンクリートの長さ変化測定方法-第3部:ダイヤルゲージ方法
- ⑨JIS A 1148 コンクリートの凍結融解試験方法
- ⑩JIS A 1150 コンクリートのスランプフロー試験方法
- ⑪JIS A 1157 コンクリートの圧縮クリープ試験方法
- ⑫JIS A 1158 試験に用いる骨材の縮分方法

- 2) 以下のJISについて改正原案の作成を開始するとともに、(一財)日本規格協会の募集する2024年度JIS原案作成公募制度に応募し、採用された。

- ①JIS A 0203 コンクリート用語

(3) ISO/TC 71 対応国内委員会

- 1) ISO/TC 71 総会、各SC(分科委員会)、およびTC・SCの傘下にあるWG・AHG(Ad Hoc Group)の会合に委員を派遣し、日本が主導する規格開発の説明を行うとともに、他国主導の規格作成に日本の意見を反映させた。
- 2) ISO/TC 71の以下の会議体において、議長、委員会マネージャー、WGのコンビーナ、WGのセクレタリーおよびエキスパートの役割を遂行した。

- ①TC 71(コンクリート、鉄筋コンクリートおよびプレストレストコンクリート):議長および委員会マネージャー
- ②SC 1(コンクリートの試験方法):エキスパート(WG)
- ③SC 3(コンクリートの製造及び施工):コンビーナおよびエキスパート(WG)
- ④SC 4(構造コンクリートの要求性能):エキスパート(WG)
- ⑤SC 5(コンクリート構造物の簡易設計標準):エキスパート(WG)
- ⑥SC 6(コンクリートの新しい補強材):議長、委員会マネージャー、コンビーナおよびエキスパート(WG)
- ⑦SC 7(コンクリート構造物の維持および補修):議長、コンビーナ、WGセクレタリーおよびエキスパート(WG)
- ⑧SC 8(コンクリートおよびコンクリート構造物の環境マネジメント):議長、委員会マネージャー、コンビーナ、WGセクレタリーおよびエキスパート(WG)

- ⑨TC 71/WG 1 (コンクリート構造物のライフサイクルマネジメント)：コンピーナおよびエキスパート
 - ⑩TC 71/WG 2 (コンクリート充填鋼管複合構造の設計)：エキスパート
 - ⑪CAG (Chair Advisory Group)：コンピーナおよびエキスパート
 - ⑫TC 71/AHG 1 (コンクリート材料の用語)：コンピーナおよびエキスパート
- 3) 国内関係機関と連携し、ISO/TC 71 から提案される各種規格案等の投票に対応した。
- 4) 日本から提案する次の ISO 規格案について、情報収集・意見収集を図るとともに、各国との調整を行い、規格化に向けた活動を行った。
- (令和 5 年度発行：新規制定および改正)
- ①ISO 5091-1～4 セメント系材料を用いた補修補強工法－第 1 部：一般原則，第 2 部：上面増厚工法，第 3 部：下面増厚工法，第 4 部：巻立て工法 (新規)
 - ②ISO 13315-3 コンクリート及びコンクリート構造物の環境マネジメント－第 3 部：構成材料およびコンクリートの製造 (新規)
 - ③ISO 13315-1 コンクリート及びコンクリート構造物の環境マネジメント－第 1 部：一般原則 (改正)
 - ④ISO 16311-2～4 コンクリート構造物の維持及び補修－第 2 部：既存コンクリート構造物の評価，第 3 部：補修の設計，第 4 部：補修の施工 (改正)
- (新規制定に向け対応中)
- ⑤繊維補強セメント複合材に用いる合成短繊維の規格：ISO/CD 13182
 - ⑥火害を受けたコンクリート構造物の診断・補修：ISO/PWI 13117
 - ⑦コンクリート及びコンクリート構造物の環境マネジメント：ISO/CD 13315-5 (コンクリート構造物の施工) および ISO/PWI 13315-7 (最終段階)
 - ⑧コンクリート及びコンクリート構成材料に固定化した二酸化炭素の定量：ISO/PWI 21282-1 (一般原則)，ISO/PWI 21282-2 (湿式分析法) および ISO/PWI 21282-3 (熱分析法)
 - ⑨コンクリート構造物のライフサイクルマネジメント：ISO/FDIS 22040-2 (計画・設計段階) および ISO/CD 22040-3 (建設 (施工) 段階)
 - ⑩コンクリートの用語
- (改正対応中)
- ⑪コンクリートの発注・製造・品質管理に関する ISO 22965-1 および ISO 22965-2
 - ⑫ISO 19338 構造用コンクリート設計規準の性能及び評価要求基準 (改正案への「コンクリート構造物の地震後継続利用のための性能評価」の組み入れ)
 - ⑬ISO 18407 水道用プレストレストコンクリートタンクの簡易設計法
 - ⑭繊維強化ポリマー (FRP) によるコンクリートの補強－試験方法：ISO 10406-1 および ISO 10406-2
 - ⑮ISO 18319-1 コンクリート構造物の FRP 補強材：FRP シートの仕様
 - ⑯ISO 19044 繊維補強セメント材料の試験方法 (切欠き梁の 3 点曲げ試験)
 - ⑰ISO 16311-1 コンクリート構造物の維持及び補修－第

1 部：一般原則

⑱ISO 13315-2 コンクリート及びコンクリート構造物の環境マネジメント－第 2 部：システム境界及びインベントリデータ

5) ISO/TC 156/SC 1 (Corrosion control engineering life cycle), ISO/TC 195/SC 1 (Machinery and equipment for concrete work) および ISO/TC 261 (Additive manufacturing) のリエゾン代表者を務めた。

(4) 再生骨材に関する JIS 改正原案作成委員会

前年度に(一財)日本規格協会の原案作成公募制度を活用して、用語・区分・使用材料・試験方法の追加・修正、品質範囲の拡充などを含む改正原案を作成した以下の JIS について、日本産業標準調査会・土木技術専門委員会の審議対応を行い、改正が公示された。

①JIS A 5021 コンクリート用再生骨材 H

②JIS A 5022 再生骨材コンクリート M

③JIS A 5023 再生骨材コンクリート L

3. 国際協力および交流

1) 6月5日～7日に開催された *fib* Symposium 2023 Istanbul と同時に開催された GA および TC 会議に *fib* Delegate である国際委員会の石田哲也委員が出席した。

2) JCI-ACI Collaboration 委員会の運営のもと、2023 年 4 月 2 日～6日に開催された ACI Concrete Convention (カリフォルニア州・サンフランシスコ) において、4月2日、3日の2日間、第6回 ACI-JCI ジョイントセミナーを開催した。4つのセッションにて日本側から JCI-ACI コラボレーション委員会の三木朋広委員長、西山峰広 JCI 会長を含め7件の発表があり、また ACI 側から8件の発表があった。各セッションに60名程度の参加者があり、活発な議論がなされて盛会であった。

3) ACI 主催の「24 Hours of Concrete Knowledge」に参加し、7月12日の15時～16時(日本時間)の間、JCI がホストを務め、JCI の昨今の研究委員会活動の内容を紹介した。4月2日～6日、および10月29日～11月1日まで開催された ACI Concrete Convention (春：サンフランシスコ、秋：ボストン) に国際委員会の秋山充良委員が参加した。

4) 9月4日～5日にバンクーバー(カナダ)で開催された RILEM TAC 会議に、国際委員会の今本啓一委員が出席した。

5) 2024 年 8 月にウランバートル(モンゴル)で開催予定の ACF 国際会議の準備に、ACF 対応委員会の長井宏平委員長がオンラインで参加した。

6) JCI と TCI との共催により、第3回 JCI-TCI Workshop “Construction of Landmark Bridges” を7月6日に福岡国際会議場で開催した。本ワークショップでは、詹穎雯元 TCI 会長および西山峰広 JCI 会長による基調講演を含め、計13件(台湾8件、日本5件)の講演が行われた。

7) ISO/TC 71 の次の会議に ISO/TC 71 対応国内委員会からそれぞれの担当者がオンラインあるいは対面にて出席した。第28回全体会議(11月30日)、第4回 CAG 会議(11月27日)、第30回 SC 1 会議(11月28日)、第32回 SC 3 会議(10月26日)、第12回 SC 3/WG 1 会議(12月8日)、第2回 SC 3/WG 3 会議(1月8日)、SC 3/WG 10 会議(第1回6月15日、第2回9月1日)、SC 4/WG 1

会議（第12回4月11日，第13回6月13日，第14回7月25日，第15回10月24日，第16回11月29日），第22回SC5会議（11月29日），第17回SC6会議（11月28日），第1回SC6/WG6会議（4月10日），第17回SC7会議（11月29日），第3回SC7/WG2会議（9月5日），第14回SC8会議（11月27日），第1回SC8/WG6会議（6月21日），WG1会議（第5回8月1日，第6回11月28日），WG2会議（第2回9月14日，第3回2月28日），AHG1会議（第1回5月11日，第2回7月26日，第3回9月12日，第4回11月2日，第5回11月28日，第6回3月7日）。

4. 受託研究事業

(1) 国際標準開発関連

三菱総合研究所（MRI）再委託（経済産業省委託）事業として、「令和5年度国際ルール形成・市場創造型標準化推進事業費（戦略的国際標準化加速事業：政府戦略分野に係る国際標準開発活動）（テーマ名：Sustainable Development Goalsの達成を実現するレジリエントなコンクリート構造物の整備に関する国際標準化）」（3年目）を実施した。5件のテーマについて，原案作成と提案のための対応を行い，成果報告書を提出して国際標準開発の事業を進めた。

(2) カーボンリサイクル評価方法のJIS開発関連

「カーボンリサイクル評価方法のJIS原案作成委員会」において，日本規格協会（JSA）再委託（経済産業省委託）事業として，「令和5年度エネルギー需給構造高度化基準認証推進事業費（省エネルギー等国際標準開発（国際標準分野（新規対応分野））」（テーマ名：コンクリート及びその構成材料のCO₂吸収・固定量の評価方法に関するJIS開発）」を実施した。本件受託で外部機関へ発注した実験結果を反映の上，コンクリートおよびコンクリート構成材料に固定化した二酸化炭素の定量方法について，「通則」，「湿式分析法」および「熱分析法」の3つのJIS原案を作成し，成果報告書を提出した。

5. 出版事業

次の論文集，研究報告書，テキスト等を刊行した。

- 1) 「微視的機構に基づくコンクリート構造物中の内部膨張反応の評価および予測に関するシンポジウム」委員会報告書・論文集（CD）
- 2) コンクリート技術の要点'23
- 3) コンクリート工学年次論文集第45巻2023年（DVD版）
- 4) Technical Committee Reports 2023（研究専門委員会報告書英文概要，Web公開）
- 5) コンクリート技士・主任技士研修テキスト'23
- 6) コンクリート診断士研修資料'23（ダウンロード版）
- 7) コンクリート診断技術'24

6. 会誌発行事業

(1) 会誌「コンクリート工学」

毎月1回刊行して会員に頒布した。特集テーマは次のとおりである。

- 1) リニューアル・解体・再利用 2023年5月号
- 2) ふるくてあたらしい中性化／炭酸化の新展開 2023年9月号
- 3) 700号記念：ライフラインとコンクリート 2024年1月号

(2) コンクリート工学論文集

オンラインジャーナルとして34巻（5月・7月・9月・11月）および35巻（3月）をWeb（J-STAGE）にて公開した。

(3) 英文ジャーナル 'Journal of Advanced Concrete Technology'

オンラインジャーナルとしてVol.21（Issue4～Issue12）およびVol.22（Issue1～Issue3）をWeb（J-STAGE）にて公開した。

7. 広報事業

(1) 広報活動

1) 会誌「コンクリート工学」，本学会パンフレット，ホームページ等により活動状況等の広報活動を行った。

2) 情報コミュニケーション委員会

定期的なホームページ更新による情報発信および広報活動を目的として，本学会ホームページのコンテンツの企画立案および運営管理を継続的に行った。主に，以下の項目に関する活動を行った。

- ①月刊コンクリート技術（一般向けコンテンツ）の公開：7月号，9月号，2月号の公開（合計3編）
- ②メールニュースの作成および配信（月1回配信。その他イベントリマインダ等を随時配信）
- ③HPリニューアルの追加内容（英語版HPのリニューアル，会員専用ページにある研究委員会報告書検索システムの改修等）の検討

3) JCI創立60周年記念事業実行委員会

令和7年7月のJCI創立60周年記念式典に向け，実施する事業等の骨子を定めた。また，具体的な準備作業を行うために，総務部会，記念誌発行部会および特別講演部会の3部会を設置した。

(2) 普及活動

1) マスコンクリートソフト普及委員会

本委員会では，主に以下の活動を行った。

- ①3次元初期応力解析ソフトJCMAC 3，3次元保有耐力解析ソフトJCMAC 3-Uおよび2次元温度応力解析JCMAC 1・2のユーザーサポートを行った。JCMAC 3およびJCMAC 3-Uに関するユーザからの問い合わせに対するサポート件数は22件であった。
- ②土木学会コンクリート標準示方書の改訂に対応し，引張強度およびセメントの発熱特性などについてバージョンアップを行った。また，「マスコンクリートのひび割れ制御指針」の次回改訂に向けて，応力状態に依存したクリープ係数の設定，および最高温度履歴を考慮した圧縮強度式を組み込んだ。
- ③第3回JCI-TCI Workshopを7月6日に福岡国際会議場で開催した。
- ④JCMAC 3-PSの開発を行い，ソルバー部分については開発を完了した。
- ⑤YouTubeを利用したJCMAC 3の英語版PR動画を作成した。
- ⑥JCMAC 3-Uの非線形構成則部分のマニュアルを整備した。また，ひび割れ幅を計算する際に用いるエネルギーの計算方法を変更した。さらに縮退要素にも対応できるように変更を行った。

2) コンクリートのひび割れ調査，補修・補強指針普及委員会

本委員会では、令和4年6月に発刊された「コンクリートのひび割れ調査、補修・補強指針2022」の講習会の実施等により同指針の普及を図ることを主な目的とし、以下の活動を行った。

- ①国内講習会（札幌、仙台、福岡）の実施
 - ②海外講習会（バンコク）の実施
 - ③2022年版指針本体に対する質問や修正指摘等への対応
 - ④2022年版指針マンション編に対する質問や修正指摘等への対応
 - ⑤2022年版指針ひび割れ判定ソフトWeb版に対する質問や修正指摘等への対応
 - ⑥2022年版指針の一部の英文化
- 3) コンクリート構造物の長期性能シミュレーションソフト普及委員会
- 本委員会では、現行の「コンクリート構造物の長期性能シミュレーションソフトLECCAシリーズ」の普及活動に加え、令和5年度はLECCAシリーズをベースとした初学者向けの教育プログラムを作成した。また、ソフトの無料使用体験および講習会を2回実施し、併せて今後の教育プログラムの改良に資するためのアンケート調査を行った。

8. 特別委員会他

(1) 関連学協会との共同活動

- 1) 日本学術会議「防災減災・災害復興に関する防災学術連携体」に委員2名を派遣し、2月14日に「地震とコンクリート構造物」というタイトルでWEB研究会を実施した。「理学・工学系学協会連絡協議会」に委員1名を派遣し情報収集を行った。
- 2) (一社)日本建設機械施工協会主催の「コンクリート機械 (ISO/TC 195/SC 1) 委員会」に委員2名を派遣し、情報収集を行った。
- 3) 12月19日に建設系7学会会長会議に参加し、「各学会の活動概要」および「フィジカル空間とサイバー空間の融合に関する取り組み」についてプレゼンおよび意見交換を行った。
- 4) 建設CPD協議会に委員2名を派遣し、情報収集を行った。JCIが来年度の会長と事務局を承引することが決まった。
- 5) PC工学会と共同でfibコンGRESS 2030の日本開催に向けて、会場選定などの準備を行った。

9. 助成金事業

研究助成および国際会議参加助成を公募し、5件の研究助成および5件の国際会議参加助成を採択した。7月7日に、福岡国際会議場にて、2022年度助成金採択者に対する助成金交付証の授与を行った。

[公2 講演会等事業]

1. 年次大会事業

(1) コンクリート工学年次大会

コンクリート工学年次大会2023(九州)を7月5日~7日の3日間、対面式にて開催した。

濱田秀則実行委員長の開会の辞、西山峰広会長の挨拶、大久保孝昭副会長によるJCI活動報告に続いて次の行事を行った。

- 1) 第45回コンクリート工学講演会
講演題数 462編
参加者 3800名(3日間延べ)
- 2) 特別講演会
東京大学大学院教授 石田哲也氏
演題:コンクリートにおけるDX
聴講者数 446名
- 3) 生コンセミナー
テーマ:サステイナブルな生コンを目指して
参加者 563名
- 4) コンクリート構造物診断セミナー
テーマ:道守養成講座15年間のあゆみと市町管理橋梁の維持管理の実態
参加者 481名
- 5) 見学会
熊本地震復興現場等見学コース
博多まちめぐりコース
- 6) キング・オブ・コンクリート
軽量コマ部門
手回しコマ部門
デザインコンベ部門
参加チーム数25チーム 参加者124名
- 7) 年次論文奨励賞50名の表彰(副賞:沖ノ島烏ガラス)

2. 講演会・講習会・シンポジウム等

(1) コンクリート技術講習会

2023年度コンクリート技術講習会を、10月1日から11月28日まで、オンライン(オンデマンド配信)形式にて開催した。参加者は573名(前年度は541名)であった。

(2) シンポジウム・セミナー・報告会・講習会

- 1) 「微視的機構に基づくコンクリート構造物中の内部膨張反応の評価および予測に関するシンポジウム」を、9月22日に東京大学にて、対面とオンラインのハイブリッド形式で開催した。参加者は115名であった。
- 2) JCI-TCIワークショップ「Construction of Landmark Bridges」を、7月6日に福岡国際会議場にて開催した。参加者は25名であった。
- 3) 「コンクリートのひび割れ調査、補修・補強指針2022」講習会を、11月20日に札幌市の北海道大学クラーク会館、3月8日に仙台市の東北大学工学部中央棟大会議室、3月28日に福岡市のリファレンス駅東ビル貸会議室にて開催した。参加者は札幌94名、仙台55名、福岡83名の計232名であった。

(3) 支部 講演会、講習会、報告会

支部主催の講演会、講習会、報告会を次のとおり開催した。

- 1) (北海道支部)支部設立30周年記念式典特別講演会
開催日:9月28日
場所:ホテル札幌ガーデンパレス(ハイブリッド形式)
演題:①「過去から未来へ、材料から構造へ」とつながるコンクリート—会誌「コンクリート工学」に見るJCIの過去、現在、そして、未来—
講師:西山峰広氏(京都大学)
演題:②「ずっと もっと つなぐ コンクリート」
講師:横田弘氏((一社)沿岸技術研究センター)
演題:③「コンクリートの過去から現在まで」

- 講師：溝口光男氏（室蘭工業大学）
 パネルディスカッション「北海道支部の未来に向けて
 「人と人をつなぐ」」
- 2) (北海道支部) コンクリートの日 in HOKKAIDO 見学会
 日時：9月5日, 6日
 場所：笹流ダム, 北海道縦貫自動車道大沼トンネル
 工事, 函館どつく, 東本願寺函館別院等
- 3) (北海道支部) コンクリートの日 in HOKKAIDO 出前講座
 開催日：10月4日
 場所：札幌駅前ビジネススペース（ハイブリッド形式）
 演題：①「コンクリート構造物の最先端技術」
 講師：橋本勝文氏（北海道大学）
 演題：②「凍害劣化によるコンクリートの強度低下」
 講師：鈴木邦康氏（釧路工業高等専門学校）
- 4) (北海道支部) 寒冷環境下におけるコンクリートの品質・耐凍害性確保に関する研究委員会 活動報告会
 開催日：3月29日
 場所：札幌駅前ビジネススペース（ハイブリッド形式）
- 5) (東北支部) 「コンクリートの施工の良否が材料劣化に及ぼす影響に関する調査研究委員会」報告会
 開催日：10月1日～3月31日
 場所：オンライン（オンデマンド）形式
- 6) (東北支部) 第18回「コンクリート診断技術研鑽のための勉強会」
 開催日：11月8日
 場所：[講習会] ホテル白萩（宮城県仙台市）
 [現場見学会] 宮城県多賀城市 三陸自動車道多賀城高架橋
- 7) (関東支部) 支部総会特別講演会
 開催日：5月26日
 場所：都市センターホテル
 演題：①「カーボンニュートラルコンクリートの社会実装に向けて」
 講師：坂田昇氏（鹿島建設株）
 演題：②「コンクリートを描く」
 講師：モリナガ・ヨウ氏
- 8) (関東支部) ハッ場ダム・東京測器桐生工場・太平洋セメント熊谷工場・首都圏外郭放水路見学会
 開催日：9月5日, 6日
- 9) (関東支部) 長野地区講演会
 開催日：10月28日
 場所：長野工業高等専門学校
 演題：①「コンクリート標準示方書と鉄筋かぶり, 水分浸透速度係数の関係」
 講師：齊藤雄次氏（㈱高見澤）
 演題：②「RFID 構造物診断技術 WIMO の概要とその後の開発状況」
 講師：森寛晃氏（太平洋セメント株）
 演題：③「外壁診断ウォールサーベイシステムの紹介」
 講師：鈴木伸明氏（㈱太平洋コンサルタント）
- 10) (関東支部) 海はたる・JFE スチール東日本製鉄所等の見学会
 開催日：2月29日, 3月1日
- 11) (関東支部) 埼玉地区見学会
 開催日：3月29日
 場所：関越自動車道リニューアル工事現場
 演題：①「プレキャスト化と高耐久化の必要性」
 講師：上石健太郎氏（㈱ホクエツ関東）
 演題：②「一万年の未来・多様な環境に挑むコンクリート EIEN」
 講師：関健吾氏（鹿島建設株）
 演題：③「埼玉のコンクリートインフラ」
 講師：横関康祐氏（東洋大学）
- 12) (中部支部) 支部活動報告会特別講演会
 開催日：5月30日
 場所：名古屋大学 ES ホール（ハイブリッド形式）
 演題：①「第1部コンクリート工学分野の調査研究活動から将来への展開」
 1) 「中部地域のコンクリート工学の将来像および研究シーズの創出に関する調査研究委員会」
 講師：岩下健太郎氏（名城大学）
 2) 「小規模橋梁を対象としたコンクリート用 DIY 補習のあり方調査研究委員会」
 講師：國枝稔氏（岐阜大学）
 演題：②「第2部コンクリート工学分野の独創的研究と将来への展開」
 「鉄筋コンクリートの劣化現象と促進試験-実時間換算の考え方および材料開発への応用」
 講師：西田孝弘氏（静岡理科大学）
- 13) (中部支部) 学生研修会
 開催日：9月5日, 6日
 場所：中部太平洋生コン(株)名古屋工場, JR 武豊線 半田駅付近立体交差事業（高架化工事）
- 14) (中部支部) 支部30周年記念事業講演会
 開催日：11月7日
 場所：名古屋大学 ES ホール
- 15) (中部支部) 支部30周年記念事業ポスター発表会
 開催日：11月7日
 場所：名古屋大学総合館1階エントランスホール
- 16) (中部支部) 現場見学会
 開催日：12月15日
 場所：愛知国際アリーナ
- 17) (中部支部) 支部総会特別講演会
 開催日：1月24日
 場所：ホテル名古屋ガーデンパレス
 演題：「コンクリートの調査設計法」
 講師：寺西浩司氏（名城大学）
- 18) (中部支部) 2023年度生コン新技術普及講習会
 開催日：2月21日
 場所：ウインクあいち（愛知県産業労働センター）
- 19) (近畿支部) 支部総会特別講演会
 開催日：5月19日
 場所：エル大阪
 演題：建設DXと働き方改革
 講師：村上陸太氏（㈱竹中工務店）
- 20) (近畿支部) 親子対象体験教室
 開催日：9月30日
 場所：大阪市立科学館
- 21) (近畿支部) 一般市民対象見学会「百石齋見学会」

- 開催日：11月6日
場 所：百石斎
- 22) (中国支部) 支部総会特別講演会
開催日：5月19日
場 所：RCC文化センター701会議室(ハイブリッド形式)
演 題：コンクリート分野へのAI活用の可能性について
講 師：中村秀明氏(山口大学)
- 23) (中国支部) わかりやすいコンクリート講習会
開催日：12月19日
場 所：岡山大学津島キャンパス共育共創コモンズ2階講義室
演 題：①「コンクリートの圧縮強度」
講 師：綾野克紀氏(岡山大学)
演 題：②「標準的な施工」
講 師：名倉健二氏(清水建設株)
演 題：③「再生骨材コンクリート、暑中コンクリート、締固めを必要とする高流動コンクリート」
講 師：桜井邦昭氏(株大林組)
演 題：④「プレキャストコンクリート」
講 師：網野貴彦氏(東亜建設工業株)
演 題：⑤「品質管理と検査」
講 師：藤井隆史氏(岡山大学)
- 24) (中国支部) 講演会
開催日：12月26日
場 所：RCC文化センター704会議室(ハイブリッド形式)
演 題：①「木材CLT壁を用いたハイブリッドRC構造物に関する耐震性評価の開発」
講 師：アルワシャリハモード氏(岡山大学)
演 題：②「コンクリートの振動締固めに関する研究」
講 師：山田悠二氏(山口大学)
演 題：③「牡蠣殻を骨材として利用したポーラスコンクリートの緑化性能」
講 師：堀口至氏(呉工業高等専門学校)
演 題：④「コンクリート構造物の予防保全」
講 師：竹田宣典氏(広島工業大学)
- 25) (中国支部) 技術・研究交流会
開催日：3月9日
場 所：広島工業大学広島校舎
内 容：19件の研究発表、技術紹介を行い、会員相互の交流を深めた
- 26) (中国支部) 中国地方のコンクリート系建造物の調査研究委員会 中間報告会
開催日：3月21日
場 所：広島オフィスセンター
演 題：①「山口県の調査報告—下関市のRC造建物及び煉瓦造建物—」
講 師：秋田知芳氏(山口大学)
演 題：②「広島県の調査報告—広島県内のRC造の建築物—」
講 師：川上善嗣氏(広島工業大学)
演 題：③「島根県の調査報告—松江市の水道事業とコンクリート構造物—」
講 師：周藤将司氏(松江工業高等専門学校)
- 演 題：④「コンクリート構造物の長寿命化を目指して—角島大橋から学ぶこと—」
講 師：温品達也氏(徳山工業高等専門学校)
- 27) (四国支部) 「四国におけるコンクリート教育に関する研究委員会」活動報告
開催日：5月16日
場 所：リーガホテルゼスト高松(ハイブリッド形式)
演 題：「コンクリート甲子園への初挑戦および防災かまど製作」
講 師：松川将大氏(つるぎ高等学校)
- 28) (四国支部) 支部総会特別講演会
開催日：5月16日
場 所：リーガホテルゼスト高松(ハイブリッド形式)
演 題：「茅葺・茅採取ワークショップの実践：四国南部の茶堂と四国カルスト」
講 師：釜床美也子氏(香川大学)
- 29) (四国支部) コンクリートに関する技術交換会・第5回
開催日：8月7日
場 所：オンライン(ライブ)形式
演 題：①「コンクリートのひび割れ調査、補修・補強指針2022の概要」
講 師：西田孝弘氏(静岡理工科大学)
演 題：②「ひび割れ調査・原因推定ソフトの概要」
講 師：河合慶有氏(愛媛大学)
- 30) (四国支部) 見学会
開催日：9月25日
場 所：松山自動車道双海橋工事、上灘川橋他1橋(鋼上部工)工事
- 31) (四国支部) コンクリートに関する技術交換会・第6回
開催日：11月24日
場 所：オンライン(ライブ)形式
演 題：①「グラウト調査手法の概要と広帯域超音波法(WUT)の特徴について」
講 師：天谷公彦氏(日本ピーエス株)
演 題：②「腐食PC鋼材へのグラウト再注入工の適用性と近年の動向」
講 師：近藤拓也氏(高知工業高等専門学校)
- 32) (四国支部) 生コンセミナー in 徳島
開催日：2月26日
場 所：徳島大学工業会館2階メモリアルホール
- 33) (九州支部) 支部総会特別講演会
開催日：4月21日
場 所：リファレンス駅東G会議室
演 題：「コンクリートの環境対応技術の開発」
講 師：小島正朗氏(株竹中工務店)
- 34) (九州支部) 第2回技術者勉強会
開催日：9月30日
場 所：大分大学
- 35) (九州支部) 第5回学生シンポジウム
開催日：11月18日
場 所：リファレンス大博多ビル11F会議室1105(ハイブリッド形式)
- 36) (九州支部) 第1回JCI若手支部間交流会
開催日：1月19日
場 所：リファレンス大博多ビル貸会議室1106室

[公3 表彰事業]

1. 学会賞

2023年日本コンクリート工学会賞（論文賞、技術賞、作品賞、奨励賞、功労賞）として次に示す論文賞3件、技術賞6件、作品賞3件、奨励賞2件、功労賞17名を選出した。

(1) 論文賞

- 1) Theory of Ionic Diffusion in Water-saturated Porous Solid with Surface Charge
市川 恒樹（北海道大学）
- 2) Effects of Severe Accident Conditions on Integrity of RPV Pedestal of Fukushima Daiichi Nuclear Power Plant
紺谷 修（鹿島建設株）
岡安 隆史（鹿島建設株）
川角 佳嗣（鹿島建設株）
石川 俊介（鹿島建設株）
正木 洋（東芝エネルギーシステムズ株）
田中 徳彦（東芝エネルギーシステムズ株）
後藤 靖之（日立GEニュークリア・エナジー株）
石岡 真一（日立GEニュークリア・エナジー株）
- 3) A New Concept of Calcium Carbonate Concrete using Demolished Concrete and CO₂
丸山 一平（東京大学）
小鷹 渉（東京大学）
Bui Ngoc Kien（東京大学）
栗原 諒（東京大学）
兼松 学（東京理科大学）
兵頭 彦次（太平洋セメント株）
平尾 宙（太平洋セメント株）
北垣 亮馬（北海道大学）
田村 雅紀（工学院大学）
辻埜 真人（清水建設株）
藤本 郷史（宇都宮大学）
野口 貴文（東京大学）

(2) 技術賞

- 1) 建設施工現場の省人化とCO₂削減を同時に達成するコンクリート技術
坂田 昇（鹿島建設株）
村上 陸太（㈱竹中工務店）
八木 利之（日本コンクリート工業株）
渡邊 賢三（鹿島建設株）
- 2) 小型容器を用いたコンクリートのブリーディング試験方法の開発（総合題目）
大塚 秀三（ものづくり大学）
中田 善久（日本大学）
十河 茂幸（近未来コンクリート研究会）
奥山 夏樹（㈱奥山組）
- 3) 深海におけるセメント硬化体の力学的挙動の解明に向けた原位置モニタリング手法の開発（総合題目）
高橋 恵輔（UBE三菱セメント株）
川端雄一郎（(国研)海上・港湾・航空技術研究所 港湾空港技術研究所）
岩波 光保（東京工業大学）
小林 真理（UBE三菱セメント株）
笠谷 貴史（(国研)海洋研究開発機構）

- 野村 瞬（東京海洋大学）
- 4) 鋼繊維補強コンクリートを用いた短スパン梁の開発
高橋 智也（大成建設株）
渡邊 悟士（大成建設株）
今井 和正（大成建設株）
渡辺 英義（大成建設株）
 - 5) 3眼カメラ配筋検査システムの土木・建築両分野での実用化
吉武 謙二（清水建設株）
小木曾淳弥（清水建設株）
末松 正俊（清水建設株）
北浦 竜二（シャープ株）
 - 6) PCLNGタンク建設における大規模プレキャスト工法適用による工期短縮と生産性向上
岩本 直樹（鹿島建設株）
松浦 正典（鹿島建設株）
加藤 健太（東京ガス株）
金子賢太郎（東京ガスエンジニアリングソリューションズ株）

(3) 作品賞

- 1) 栃木県総合運動公園東エリア（日環アリーナ栃木）
西尾 元宏（㈱グリーンナとちぎ）
杉山 雄亮（大成建設株）
飯田 雄介（大成建設株）
森田 有貴（大成建設株）
寺田 健一（大成建設株）
- 2) 望洋楼
刀根 瑛昌（㈱第一望洋楼）
川添 善行（㈱空間構想）
岡村 仁（㈱KAP）
原田 周子（SH ARCHITECTS & DESIGN）
村田 和彦（㈱明野設備研究所）
下川 成一（田中建設株）
岩上 義則（寺前生コン株）
吉野 友康（全国生コンクリート工業組合連合会）
西島 茂行（㈱JUST. WILL）
松山 高之（コンクリート用化学混和剤協会）
友寄 篤（東京大学）
- 3) 沖縄セルラーフォレストビル
松本光太郎（沖縄セルラー電話株）
吉野 繁（㈱日建設計）
原田 公明（㈱日建設計）
片瀬 雪乃（㈱日建設計）
瀧口真衣子（㈱日建設計）
村上 竜人（㈱日建設計）
小浜 修二（㈱大林組）

(4) 奨励賞

- 1) 気象条件の影響を考慮したコンクリートの乾燥程度の推定に基づく鋼材腐食速度の把握に関する研究（総合題目）
高橋 駿人（東京理科大学）
- 2) 光ファイバを用いたセンシング技術のコンクリート構造物への実装
小林 聖（鹿島建設株）

(5) 功労賞

- 池尾 陽作 大屋戸理明 梶田 秀幸
岸 利治 草野 昌夫 神代 泰道

小島 正朗 小山 明男 陣内 浩
菅俣 匠 武田 三弘 中村 成春
野島 昭二 原田 哲夫 松田 芳範
山本 武志 横関 康祐

2. 支部表彰

支部別に以下の表彰を行った。

- 1) 北海道支部
支部優秀学生賞 3名
- 2) 東北支部
支部奨励賞 2件, 支部功労賞 9名
- 3) 近畿支部
支部奨励賞 4名
- 4) 中国支部
コンクリートマイスター認定 1名
- 5) 九州支部
支部長表彰
大学院 20名, 大学 24名, 高専 4名,
専修 1名 合計 49名

Ⅲ 収益事業

[収1 資格付与事業]

1. コンクリート技士・主任技士資格制度事業

(1) コンクリート技士・主任技士試験
11月26日に、全国9地域(札幌, 仙台, 東京, 名古屋, 大阪, 広島, 高松, 福岡, 沖縄)において、コンクリート技士・主任技士試験を実施した。

全国の受験者はコンクリート技士試験8410名(前年度8672名)、コンクリート主任技士試験2944名(前年度2946名)で、合格者はコンクリート技士試験2681名(合格率31.9%)、コンクリート主任技士試験384名(合格率13.0%)であった。

(2) コンクリート技士・主任技士研修

第37回コンクリート技士研修および第8回コンクリート主任技士研修を、eラーニング形式にて実施した。

全国の受講者はコンクリート技士10257名、コンクリート主任技士2502名の合計12759名(前年度コンクリート技士9690名、コンクリート主任技士2485名の合計12175名)であった。

(3) コンクリート技士・主任技士の登録

コンクリート技士・主任技士試験合格者からの申請に基づき、コンクリート技士2629名(登録率98.1%)、コンクリート主任技士381名(登録率99.2%)の登録を行った。また、登録有効期間(4年)満了となる登録者および未登録者のうち、コンクリート技士・主任技士研修を受講したコンクリート技士9649名、コンクリート主任技士2479名の更新・再登録を行った。この結果、2024年4月1日における登録者数は、コンクリート技士49745名、コンクリート主任技士11380名となった。

なお、コンクリート技士・主任技士試験の2023年度の受験者数、合格者数および2024年4月1日における登録者数の業種別内訳は、次表のとおりである。

業種	技士試験		主任技士試験		登録者	
	受験者	合格者	受験者	合格者	技士	主任技士
官庁	20	10	8	3	251	37
独立行政法人・事業団等	30	11	14	4	296	76
地方自治体等	85	52	34	12	1040	179
大学・学校	6	1	8	4	68	65
設計事務所	35	22	13	4	460	117
コンサルタント	539	223	87	19	2922	682
エンジニアリング	74	32	10	4	201	35
セメント	94	46	48	17	637	390
混和材料	60	21	81	10	752	388
生コンクリート	1807	412	1437	99	10082	3853
コンクリート製品	901	191	232	25	4139	681
建設	3904	1373	782	155	24048	3829
調査診断	139	36	12	0	199	50
試験	145	38	67	8	242	82
電力・ガス	72	36	14	6	367	96
鉄道	138	60	9	1	561	73
道路	81	30	22	2	590	75
その他	280	87	66	11	2890	672
合計	8410	2681	2944	384	49745	11380

2. コンクリート診断士資格制度事業

(1) コンクリート診断士講習

第23回コンクリート診断士講習をeラーニング形式にて、4月7日から5月19日に実施した。

全国の受講申込者は3160名(前年度3344名)であった。

(2) コンクリート診断士試験

7月23日に、全国9地域(札幌, 仙台, 東京, 名古屋, 大阪, 広島, 高松, 福岡, 沖縄)において、コンクリート診断士試験を実施した。

全国の受験者は3412名(前年度3474名)で、合格者は535名(合格率15.7%)であった。

(3) コンクリート診断士研修

第19回コンクリート診断士研修をeラーニング形式で実施した。全国の受講修了者は3476名(前年度3454名)であった。

(4) コンクリート診断士の登録

コンクリート診断士試験合格者からの申請に基づき、535名(登録率100.0%)の登録を行った。また、登録有効期間(4年)満了となる登録者および未登録者のうち、コンクリート診断士研修を受講した3475名の更新・再登録を行った。この結果、2024年4月1日におけるコンクリート診断士登録者数は14857名となった。

なお、コンクリート診断士の2023年度の受験者数、合格者数および2024年4月1日における登録者数の業種別内訳は、次表のとおりである。

業 種	受 験 者	合 格 者	登 録 者
官 庁	36	7	140
独立行政法人・事業団等	39	7	187
地方自治体等	133	35	815
大学・学校	7	2	75
設計事務所	52	9	208
コンサルタント	831	140	3 767
エンジニアリング	65	7	237
セメント	48	16	284
混和材料	20	4	151
生コンクリート	275	20	694
コンクリート製品	103	8	415
建 設	1 343	199	5 709
調査診断	125	24	468
試 験	38	6	94
電力・ガス	32	7	204
鉄 道	52	11	294
道 路	87	19	365
その他	126	14	750
合 計	3 412	535	14 857

3. 資格・講習委員会

コンクリート診断士試験およびコンクリート技士・主任技士試験合格者の内定を行った。また、国土交通省の技術者資格登録の対応を行った。

[収 2 その他の収益事業]

1. コンクリートテクノプラザ 2023

コンクリート工学年次大会 2023（九州）と併行して、コンクリートテクノプラザ 2023 を開催した。

展示 63 社 技術紹介セッション 40 件
入場者数 3 日間延べ 5 176 名

IV そ の 他

1. 名誉会員の称号授与

第 56 回定時社員総会の決定に基づき、佐藤嘉昭氏、月永洋一氏、鳥居和之氏、二羽淳一郎氏、原田修輔氏、睦好宏史氏の 6 名に名誉会員の称号を授与した。

2. 終身会員およびフェロー会員の表彰

令和 5 年度の終身会員 8 名、フェロー会員 11 名を認定し、会誌 2023 年 2 月号にて公表した。

3. 定款・規則改定委員会

令和 5 年度については、定款および工学会規則の改定はなかった。

4. 会員の動向

会員種別	令和 4 年度末 会 員 数	令和 5 年度中の異動			令和 5 年度末 会 員 数
		入会	退会	異動	
正 会 員	5 745	276	455	127	5 693
学 生 会 員	368	247	78	-127	410
第 1 種団体会員	43	2	0	-	45
第 2 種団体会員	345	8	3	-	350
計	6 501	533	536	0	6 498

*異動：学生会員から正会員への変更等

5. 役員の異動

(1) 退 任

令和 5 年 6 月 22 日付で退任した役員は次のとおりである。

副 会 長 名倉健二, 前川宏一
専務理事 信田佳延
理 事 犬飼利嗣, 井上和政, 今本啓一,
坂田弘安, 武田三弘, 寺島善宏,
中村 光, 中谷郁夫, 山崎順二,
山田義智
監 事 岩永豊司

(2) 就 任

令和 5 年 6 月 22 日付で就任した役員は次のとおりである。

副 会 長 内田裕市, 黒岩秀介
専務理事 入矢桂史郎
理 事 阿波 稔, 椛山健二, 岸 秀樹,
楠 浩一, 國枝 稔, 神代泰道,
小林孝一, 瀧澤明次, 鶴田浩章,
西本洋一, 山口明伸
監 事 野村謙二

貸借対照表

(令和6年3月31日現在)

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	529 943 155	525 471 924	4 471 231
未収金	10 610 654	9 469 285	1 141 369
前払金	26 835 034	23 344 737	3 490 297
棚卸資産	14 035 135	8 302 813	5 732 322
流動資産合計	581 423 978	566 588 759	14 835 219
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
定期預金	250 000 000	250 000 000	0
基本財産合計	250 000 000	250 000 000	0
(2) 特定資産			
退職給付引当預金	48 668 300	45 978 300	2 690 000
減価償却引当預金	19 770 000	19 770 000	0
資格付与事業積立預金	130 000 000	100 000 000	30 000 000
会員システム構築積立預金	0	45 100 000	▲45 100 000
事務所原状回復費用積立預金	19 440 000	19 440 000	0
補償引当金積立コード簿積立預金	406 848	1 254 508	▲847 660
補償引当金積立コードソフトウェア	4 943 400	7 062 000	▲2 118 600
特定資産合計	223 228 548	238 604 808	▲15 376 260
(3) その他固定資産			
什器備品	26 999 516	18 888 705	8 110 811
造作設備	1 643 017	1 873 271	▲230 254
ソフトウェア	51 265 771	31 386 217	19 879 554
特許権	222 348	333 522	▲111 174
リース資産	6 978 648	1 413 288	5 565 360
電話加入権	438 451	438 451	0
差入保証金	58 536 000	58 536 000	0
その他固定資産計	146 083 751	112 869 454	33 214 297
固定資産合計	619 312 299	601 474 262	17 838 037
資産合計	1 200 736 277	1 168 063 021	32 673 256
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	42 661 900	49 054 364	▲6 392 464
預り金	1 402 056	1 575 157	▲173 101
前受金	127 674 800	131 706 000	▲4 031 200
賞与引当金	11 928 000	12 114 000	▲186 000
流動負債合計	183 666 756	194 449 521	▲10 782 765
2. 固定負債			
退職給付引当金	48 668 300	45 978 300	2 690 000
リース債務	6 978 648	1 413 288	5 565 360
資産除去債務	19 440 000	19 440 000	0
固定負債合計	75 086 948	66 831 588	8 255 360
負債合計	258 753 704	261 281 109	▲2 527 405
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
寄付金	5 350 248	8 316 508	▲2 966 260
指定正味財産合計	5 350 248	8 316 508	▲2 966 260
(うち基本財産充当額)	(0)	(0)	(0)
(うち特定財産充当額)	(5 350 248)	(8 316 508)	(▲2 966 260)
2. 一般正味財産	936 632 325	898 465 404	38 166 921
(うち基本財産充当額)	(250 000 000)	(250 000 000)	(0)
(うち特定財産充当額)	(149 770 000)	(164 870 000)	(▲15 100 000)
正味財産合計	941 982 573	906 781 912	35 200 661
負債及び正味財産合計	1 200 736 277	1 168 063 021	32 673 256

正味財産増減計算書

(令和5年4月1日から令和6年3月31日まで)

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益			
基本財産受取利息	5 003	4 997	6
特定資産運用益			
特定資産受取利息	3 800	4 688	▲888
受取会費			
受取入金会金	518 000	444 000	74 000
受取会費益	95 088 800	95 811 500	▲722 700
事業収益			
受託研究事業収益	14 813 749	16 962 478	▲2 148 729
出版事業収益	36 615 662	66 823 127	▲30 207 465
誌発行事業収益	5 218 339	4 344 637	873 702
広報事業収益	20 064 000	0	20 064 000
年次大会事業収益	23 447 000	14 656 500	8 790 500
講演会等事業収益	12 947 430	22 719 360	▲9 771 930
国際会議事業収益	0	23 746 000	▲23 746 000
技士・主任技士事業収益	403 182 809	356 182 125	47 000 684
診断士事業収益	183 373 800	190 750 898	▲7 377 098
テクノプラザ他事業収益	36 795 000	23 045 000	13 750 000
受取寄付金			
受取寄付金振替額	2 966 260	2 889 095	77 165
雑収益			
受取利息	5 992	5 891	101
印税収益	2 030 982	2 390 348	▲359 366
雑収益	1 877 717	1 207 270	670 447
経常収益計	838 954 343	821 987 914	16 966 429
(2) 経常費用			
調査研究事業費	53 382 733	50 165 627	3 217 106
標準化事業費	26 736 404	16 245 307	10 491 097
国際化事業費	9 451 115	17 653 657	▲8 202 542
受託研究事業費	11 906 128	9 965 098	1 941 030
出版事業費	33 978 272	68 981 800	▲35 003 528
誌発行事業費	101 032 884	83 439 573	17 593 311
広報事業費	56 679 915	28 933 360	27 746 555
助成金事業費	11 655 299	7 443 674	4 211 625
年次大会事業費	59 622 865	40 058 213	19 564 652
講演会等事業費	28 698 515	33 883 367	▲5 184 852
国際会議事業費	0	26 532 768	▲26 532 768
表彰事業費	15 722 500	12 263 000	3 459 500
技士・主任技士事業費	188 678 112	197 879 735	▲9 201 623
診断士事業費	142 414 682	146 312 041	▲3 897 359
テクノプラザ他事業費	17 864 787	13 866 920	3 997 867
管理費			
人件費	13 388 595	11 466 600	1 921 995
会議費	13 139 117	11 867 597	1 271 520
事務費	16 231 457	12 429 911	3 801 546
経常費用計	800 583 380	789 388 248	11 195 132
当期経常増減額	38 370 963	32 599 666	5 771 297
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益	0	0	0
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
固定資産除却損	204 042	0	204 042
経常外費用計	204 042	0	204 042
当期経常外増減額	▲204 042	0	▲204 042
当期一般正味財産増減額	38 166 921	32 599 666	5 567 255
一般正味財産 期首残高	898 465 404	865 865 738	32 599 666
一般正味財産 期末残高	936 632 325	898 465 404	38 166 921
II 指定正味財産増減の部			
一般正味財産への振替額	2 966 260	2 889 095	77 165
当期指定正味財産増減額	▲2 966 260	▲2 889 095	▲77 165
指定正味財産 期首残高	8 316 508	11 205 603	▲2 889 095
指定正味財産 期末残高	5 350 248	8 316 508	▲2 966 260
III 正味財産 期末残高	941 982 573	906 781 912	35 200 661

令和6年度事業計画の概要

I 公益目的事業

[公1 コンクリートに関する調査研究事業]

1. 調査研究事業

(1) 研究委員会所管の委員会

1) JCI-TC 221 A セメント・コンクリートの環境影響評価に関する研究委員会 (令和4～6年度)

セメント・コンクリートの環境影響を多角的な視点から総合的かつ統一的に評価する手法を構築することを目的として、セメント、骨材等のコンクリート構成材料、コンクリートおよびコンクリート構造物等に関するイベントリデータを整備し、環境影響評価のモデルケースを構築する活動を前年度まで実施した。令和6年度は、前年度までの活動成果を報告書として取りまとめ、さらに報告会を開催してその活動成果を一般に広く提供することにより、包括的なセメント・コンクリートの環境影響評価の推進を図る。これによって、委員会活動を総括する。

2) JCI-TC 222 A コンクリート中の鉄筋腐食の統一的な取扱いに関する研究委員会 (令和4～6年度)

水がコンクリート中の鉄筋の腐食に与える影響について整理し、鉄筋腐食を統一的に取扱うためのシナリオを作成することを目的として、2年間に渡りWGでの議論、現地調査、基礎実験などを行ってきた。令和6年度は、これまでの活動で得られた成果を報告書として取りまとめ、報告会を開催する。

3) JCI-TC 231 A コンクリートにおける石灰石微粉末の実用性に関する研究委員会 (令和5～6年度)

石灰石微粉末をコンクリート分野においてカーボンニュートラル材料としても積極的に活用していくために、その現況と、効果や課題を取りまとめ、実用に資する資料を提示することを目的として、3つの分科会において以下のような活動を行う。①石灰石微粉末を活用したコンクリートの実績等について、コンクリート製造分野における配(調)合の種類等の特徴や出荷実績の詳細なヒアリング調査を行い、実状を明らかにするとともに、各種基準類における記載内容の文献を調査する。②セメント製造分野等において、石灰性微粉末の環境負荷低減効果、海外・国内のセメント規格における石灰石微粉末の位置付け、人工炭酸カルシウムの開発事例等を調査し、今後の展望を検討する。③石灰石微粉末の製造・流通の状況、利用する段階での管理方法の実状と課題をヒアリング等で調査するとともに、コンクリート製品の表面美観の改善効果に関する実験等も併せて石灰石微粉末利用の効果を明らかにする。また、材料の規格化の方向性を検討する。

4) JCI-TC 232 A コンクリートのアカデミックデータベースの整理とAIへの活用に関する研究委員会 (令和5～6年度)

コンクリート構造物に関する実務での設計や維持管理体系の高度化に対し、今後活用が期待されるAI・機械学習技術の利用を促進させることを目的として、コン

クリートの材料および構造両面でのビッグデータの収集方法の構築と、AI・機械学習への活用方法の提案を行う。具体的には、JCIならびに各種学会で発表された実験および実構造物データを項目ごとに抽出し、これらの整理方法や公開方法等を議論し、データを一元的に集約するとともに、これらのデータをAI・機械学習に活用し、コンクリート構造物の構造性能や材料挙動等に関する予測の回帰式等、具体的なモデルの構築手順を提示する。

5) JCI-TC 233 A コンクリート構造物の性能評価型耐震設計法の日米比較に関する研究委員会 (令和5～6年度)

建築・土木構造における、コンクリート構造物の非線形地震応答解析を用いる性能評価型耐震設計法を対象として、その改善方策の提案、および実現のためのロードマップならびにコンクリート構造の研究コミュニティが取り組むべき研究課題を抽出し、報告書に取りまとめることを目標としている。令和6年6月に、本委員会とACI 374が協力して令和5年度から実施してきた共通建物の試設計の結果について、互いに報告し討論するための日米ワークショップを開催し、日米の実務における非線形時刻歴応答解析の用いられ方の共通点や相違点についてお互いに理解を深める。さらに、令和6年度末までに、それらの設計に適用した日米のガイドラインの適用範囲、コンクリート部材や要素のモデル化、設計クライテリア、信頼性、利用上のルール・留意事項などについての比較に関する資料の作成と、日米の設計例の違いについての考察を行い、コンクリート構造の研究コミュニティが今後取り組むべき研究課題を抽出し、報告書に取りまとめる作業を行う。

6) JCI-TC 234 A 構造性能に主眼を置いた鋼材腐食性状の診断・推定手法に関する研究委員会 (令和5～6年度)

現行の定期点検要領との接続を意識しつつ、また「鉄筋腐食したコンクリート構造物の構造・耐久性性能評価の体系化研究委員会(JCI-TC 112 A)」で問題提起された内容を踏襲すべく、既存実構造物における腐食した鋼材の時空間で変化する腐食量を推定可能とする手法を提示することを目的とする。令和6年度は、報告書の取りまとめ、構造性能の観点に立脚した診断対象領域の選定、非破壊検査手法の選定から検査結果の評価およびその時間軸空間予測に至る一連の内容や手順を取り纏めたマニュアルの作成を、実務レベルの視点から実施する。

7) JCI-TC 241 A コンクリート用自己治癒材の性能評価と実環境での適用に関する研究委員会 (令和6～7年度)

自己治癒材(無機系、有機系、微生物系、埋設パイプ、カプセル型等)の効果発現に対する環境影響の評価および効果が持続するための環境条件について知見を整理し、コンクリート内部環境の評価指標を抽出する。また、自己治癒材の効果発現機構と適用環境を考慮した新素材開発に関する知見整理と実験の検討を共通試験として実施する。特に、効果発現・持続性の異なる種々の自己治癒材を用いて製作した供試体を対象として共通試験を実施し、評価対象とする物理量・環境指標を計測して、時間軸を加味した間接的/直接的評価方法の再現性、精度について検討する。

8) JCI-TC 242 A コンクリート分野における電磁波の高度利用に関する研究委員会 (令和6~7年度)

数百 MHz~数百 THz の周波数帯の電磁波に関して、従来の鉄筋探査等への適用だけでなく、コンクリート内部や損傷状況の可視化、塩分・水分等の劣化因子の把握、鉄筋腐食状況の評価等のコンクリート分野への高度利用に対する技術の調査、普及のための検討を行う。コンクリート分野だけでなく、関連する分野の研究開発動向、適用事例等について幅広い調査を行い、技術の現状として取りまとめる。また、これらの新しい技術に関して、各種技術の適用性に関する横断的な評価実験、本学会刊行物「コンクリート診断技術」への技術情報の提供等を行い、技術の普及に寄与することを目的とする。

9) JCI-TC 243 A 予防保全を目的とした鉄筋コンクリート構造物の点検方法に関する研究委員会 (令和6~7年度)

鉄筋コンクリート構造物において、現行の5年毎の橋梁点検で実施される外観目視点検および打音検査によって評価できるのは、鉄筋腐食が既に進行したために発生したコンクリートの変状の状況であり、そこから採れる対策は事後保全的な維持管理となることが多い。維持管理手法を事後保全型から予防保全型へと移行させるためには、一見健全な状態に見える段階での鉄筋腐食を精度よく評価するための点検手法の確立が急務である。そこで、①中性化深さの評価方法、②塩化物イオン濃度の評価方法、③鉄筋腐食度の評価方法をそれぞれ検討する WG 活動を通じて、中性化および塩害を対象とした鉄筋コンクリート構造物の予防保全を目的とした点検方法について調査し、これらの点検方法を確立することを目標とする。

10) JCI-TC 244 A 鉄筋コンクリート造構造物の津波被害軽減化技術に関する研究委員会 (令和6~7年度)

2011年東北地方太平洋沖地震以降、研究者レベルで行ってきた津波荷重を対象とした鉄筋コンクリート造構造物や部材の局部破壊に対する構造設計法に関わる研究や実設計の事例等を文献収集するとともに、津波作用時に地震力とは異なる鉄筋コンクリート造柱やはりなど耐圧部材の波圧による損傷、漂流物衝突荷重や堰止め荷重、2方向外力の影響、基礎地盤の洗掘、津波荷重に対する既存建築物の部材補強、免震構造における設計上の留意点、粘り強い防潮堤の設計方法等を取りまとめる。また、必要に応じて縮小模型を用いた水圧実験や漂流物衝突などの実験の実施、あるいは自治体における津波防護施設・避難施設の設計方法・建設方法に関するヒアリング調査等を実施し、設計における適切な評価方法について検討する。

11) JCI-TC 245 F コンクリート構造物の崩壊過程の予測・評価に関する FS 委員会 (令和6年度 FS)

鉄筋コンクリート系の土木・建築構造物は、大規模地震に際して倒壊・崩壊に至る場合がある。構造物単体の性能だけでなく様々な要因が考えられるが、解析的にその挙動を予測・評価する手法は確立されるに至っていない。本 FS では、崩壊挙動に関する研究動向とともに、これらを対象とした予測・評価技術に関して、非線形 FEM 解析をはじめとした詳細解析から大規模モデルまでのさまざまな解析技術の現状や研究動向を調査する。本 FS を踏まえて、崩壊挙動の予測・評価に対する有用性や活用

可能性を考察し、さらなる調査研究活動への展開につなげる。

(2) 技術委員会所管の委員会

1) コンクリート基本技術調査委員会

コンクリート工事の実務者を対象に、コンクリートの製造および施工に関わる基本技術と新技術を整理し情報発信を行うことを目的としている。令和6年度は、準備工 WG で鉄筋工についての調査報告会を行い、運搬 WG でコンクリートの運搬についての調査報告書を作成する。

2) 危急存亡状態のコンクリート構造物対応委員会

前年度までの7か年にわたる活動に引き続き、共通試験 WG およびモニタリング WG にて活動を行う。共通試験 WG では、「端島（通称『軍艦島』）における補修材の効果検証に関する共通試験実施についての基本書」に則って、端島において様々な補修を施した上で暴露させた鉄筋コンクリート試験体を対象に、定期的に劣化の進行状況や物理的・化学的な変化を観察・測定し、その結果に基づく分析から、塩害劣化の進行・抑制のメカニズムおよび補修効果を検討する。モニタリング WG では、端島に残存する自然倒壊が間近に迫っている建築物（30号棟）を対象に実施されている遠隔地モニタリングの結果に基づく分析・解析を行うとともに、新たにモニタリングを実施する建築物の選定を行う。併せて、これまでの委員会の活動成果を広く一般に紹介するための報告会（ハイブリッド形式）を開催する。

3) マスコンクリートのひび割れ制御指針改訂原案作成委員会

「マスコンクリートのひび割れ制御指針」改訂版の2025年刊行を目指しており、令和6年度はこれまでの指針の構成を大きく変更し、指針改訂原案を「本編」、「温度ひび割れ制御編」および「DEF ひび割れ防止編」の三編構成とするとともに、それぞれの編の作成および取りまとめを行い、改訂原案を完成させ、規準・指針管理委員会および理事会に諮る。

(3) 支部研究委員会（確定している委員会のみ記載）

1) (北海道支部) 寒冷環境下におけるコンクリートの品質・耐凍害性確保に関する研究委員会 (令和3~6年度)

2) (北海道支部) 時間軸性能評価に基づく北海道地域の構造物設計に関する研究委員会 (令和4~6年度)

3) (北海道支部) 将来構想検討委員会 (令和5~7年度)

4) (東北支部) 東北地方におけるコンクリート構造物の劣化進行に関する調査研究委員会 (第II期) (令和6~7年度)

5) (近畿支部) 百石斎（田邊朔郎書斎）調査委員会 (令和3~6年度)

6) (中国支部) 中国地方のコンクリート系建造物の調査研究委員会 (令和3~7年度)

7) (中国支部) ジオポリマー硬化体の配調合調査研究委員会 (令和5~6年度)

8) (四国支部) 四国におけるコンクリート教育に関する研究委員会 (常設委員会)

9) (四国支部) コンクリート工の生産性向上のためのトラックアジェータ車の高性能化に関する研究委員会 (令和5~6年度)

10) (九州支部) 九州に堆積する火山噴出物の活用方法に関する研究成果報告委員会 (令和4~6年度)

- 11) (九州支部) 非破壊試験による表層部コンクリートの品質評価に関する研究専門委員会 (令和5～6年度)
- 12) (九州支部) セメント系材料の接合・接着部の性能に関する研究専門委員会 (令和5～7年度)

2. 標準化事業

(1) 規準・指針管理委員会

研究専門委員会および規準・指針原案作成委員会等から提案および審査の申請がなされた規準原案・指針(改正)原案に対し、「日本コンクリート工学会規準・指針の制定/改正に関する規程」に基づく審査を行い、妥当と判断された原案については理事会へ付議する。また、制定済みのJCI規準で制定(もしくは前回確認および改正)から5年経過したものについて使用状況の調査を行い、確認/要改正/要JIS化/廃止の判断を行う。

(2) コンクリート試験方法 JIS 原案作成委員会

令和8年度に見直し期限を迎える規格について、改正要否の検討を行う。また、(一財)日本規格協会の共同原案作成事業令和6年度区分Aを活用し、JIS A 0203(コンクリート用語)の改正原案を作成する。

(3) ISO/TC 71 対応国内委員会

- 1) ISO/TC 71 総会, TC 71 の各分科委員会(SC)およびTC 71 直下のWG等の会合にTC議長・委員会マネジャー, SC議長・委員会マネジャー, WGコンビーナおよび関連分野のエキスパートを派遣し, 日本が主導する規格開発の説明を行い, 規格作成に日本の意見を反映させる。
- 2) ISO/TC 71 において, 議長, 委員会マネジャー, コンビーナ, エキスパート(WG), およびSC担当委員の役割を遂行する。
 - ①TC 71 (コンクリート, 鉄筋コンクリートおよびプレストレストコンクリート): 議長および委員会マネジャー
 - ②SC 1 (コンクリートの試験方法): エキスパート (WG)
 - ③SC 3 (コンクリートの製造および施工): コンビーナおよびエキスパート (WG)
 - ④SC 4 (構造コンクリートの要求性能): エキスパート (WG)
 - ⑤SC 5 (コンクリート構造物の簡易設計標準): コンビーナおよびエキスパート (WG)
 - ⑥SC 6 (コンクリートの新しい補強材): 議長, 委員会マネジャー, コンビーナおよびエキスパート (WG)
 - ⑦SC 7 (コンクリート構造物の維持および補修): 議長, コンビーナ, エキスパート (WG)
 - ⑧SC 8 (コンクリートおよびコンクリート構造物の環境マネジメント): 議長, 委員会マネジャー, コンビーナおよびエキスパート (WG)
 - ⑨TC 71/CAG (議長諮問グループ): コンビーナ
 - ⑩TC 71/WG 1 (コンクリート構造物のライフサイクルマネジメント): コンビーナおよびエキスパート
 - ⑪TC 71/WG 2 (コンクリート充填鋼管複合構造の設計標準): エキスパート
 - ⑫TC 71/AHG 1 (コンクリート材料の用語) コンビーナおよびエキスパート
- 3) 国内関係機関と連携し, ISO/TC 71 から提案される各種規格案等の投票に対応する。
- 4) 日本から提案する次のISO規格案について, 国内外において情報収集・意見収集を行うとともに, 各国との調整を行い, 早期の規格化を図る。

(新規)

- ①コンクリート構造物のライフサイクルマネジメント(維持管理段階)
- ②施工時, 竣工時, 管理時のコンクリート構造物の非破壊試験方法
- ③火害を受けたコンクリート構造物の診断・補修 ISO/PWI 13117
- ④コンクリートおよびコンクリート構造物の環境マネジメント ISO/PWI 13315-7 (最終段階)
- ⑤コンクリートの用語(環境配慮型コンクリートに関する用語を含む)
- ⑥コンクリート及びコンクリート構成材料に固定化した二酸化炭素の定量 ISO/PWI 21282-1 (通則), ISO/PWI 21282-2 (湿式分析法), ISO/PWI 21282-3 (熱分析法)

(継続)

- ①コンクリートの発注・製造・品質管理に関する ISO 22965-1 及び ISO 22965-2 (改正)
- ②構造用コンクリート設計規準の性能及び評価要求基準(コンクリート構造物の地震後継続利用のための性能評価) ISO 19338 (改正)
- ③水道用プレストレストコンクリートタンクの簡易設計法 ISO 18407 (改正)
- ④繊維補強セメント複合材料に用いる合成短繊維の規格 ISO 13182
- ⑤繊維強化ポリマー(FRP)によるコンクリートの補強-試験方法 ISO 10406-1 及び ISO 10406-2 (改正)
- ⑥コンクリート構造物のFRP補強材: FRPシートの仕様 ISO 18319 (改正)
- ⑦繊維補強セメント複合材料の試験方法-切欠き梁による荷重-変位曲線 ISO 19044 (改正)
- ⑧コンクリート構造物の維持補修に関する ISO 16311-1, ISO 16311-3 および ISO 16311-4 (改正)
- ⑨コンクリートおよびコンクリート構造物の環境マネジメント ISO 13315-2 (改正)
- ⑩コンクリートおよびコンクリート構造物の環境マネジメント ISO 13315-5 (コンクリート構造物の施工)
- ⑪コンクリート構造物のライフサイクルマネジメントにおける計画・設計段階でのマネジメントに関する規格 ISO 22040-2
- ⑫コンクリート構造物のライフサイクルマネジメントにおける建設(施工)段階でのマネジメントに関する規格 ISO 22040-3
- 5) ISO/TC 156/SC 1 (Corrosion control engineering life cycle), ISO/TC 195/SC 1 (Machinery and equipment for concrete work) および ISO/TC 261 (Additive manufacturing) のリエゾン代表者を務める。

3. 国際化事業

- (1) *fib*
 - 1) 技術評議会と総会に代表委員を派遣する。
 - 2) *fib* コンgress 2030 準備委員会を設置し, 2030年の*fib* コンgress日本開催の準備をPC工学会と共同で開始する。
- (2) ACI
 - 1) ACI Concrete Conventionに代表委員を派遣する。
 - 2) 7th JCI-ACI Joint Seminarを2025年に日本で実施す

るための講演テーマ、講演者の選定等の運営支援を行う。

(3) RILEM

RILEM/TAC 会議に代表委員を派遣する。

(4) ACF

代表委員を派遣するとともに、ACF の諸事業活動を積極的に支援する。ACF 総会・Executive Council 会議は、8月15日～18日にモンゴル（ウランバートル）にて開催される The 10th Conference of the Asian Concrete Federation (ACF) の期間中に予定されている。

(5) TCI

代表委員を台湾に派遣し、TCI との今後のコラボレーション活動および 4th JCI-TCI Workshop (2025 年開催予定) に関する会議を行う。

4. 受託研究事業

(1) ISO/TC 71 対応国内委員会

国際標準の開発を目的とした次の受託研究業務を実施する。
・コンクリート構造物のライフサイクルマネジメントを支援する調査・診断・補修技術に関する国際標準化 (TC 71 幹事国対応業務を含む。)

(2) カーボンリサイクル評価方法の JIS 原案作成委員会
コンクリート及び構成材料に固定化した二酸化炭素の評価に関する JIS の開発および国際標準化に向けた対応を行う。

(3) コンクリートに用いるスラグ骨材の環境安全品質に関する検討

コンクリートに用いるスラグ骨材の環境安全品質に関する基本的な考え方の取りまとめと、利用実態を踏まえた重金属類の溶出試験のあり方を検討する。

5. 出版事業

(1) コンクリート技術講習会テキスト「コンクリート技術の要点'24」

(2) コンクリート技士・主任技士研修テキスト「2024 年度コンクリート技士・主任技士研修テキスト」

(3) コンクリート診断士研修資料「コンクリート診断士研修資料'24」(ダウンロード版)

(4) コンクリート診断士講習テキスト「コンクリート診断技術'25」

(5) コンクリート工学年次論文集 第 46 巻 2024 年 (DVD 版)

(6) Technical Committee Reports 2024 (JCI 研究委員会報告書要旨：電子公開)

(7) 「セメント・コンクリートの環境影響評価に関する研究委員会」報告書

(8) 「コンクリート中の鉄筋腐食の統一的な取扱いに関する研究委員会」報告書

(9) 「危急存亡状態のコンクリート構造物対応委員会」報告書 (仮題)

(10) 「コンクリート基本技術調査委員会 準備工 WG」報告書 (仮題)

6. 会誌発行事業

(1) 会誌「コンクリート工学」

「コンクリート工学」を毎月 1 回刊行して会員に頒布する。また、会員には発刊 1 年後に電子公開し、非会員には 3 年後に電子公開する。

年 3 回の特集号のテーマは以下のとおり予定している。

1) コンクリートの数値計算技術 2024 年 5 月号

2) コンクリート分野における AI の活用と発展 2024 年 9 月号

3) (未定) 2025 年 1 月号

また、文献調査委員会により審議された「レビュー論文」を年 9 回掲載する。

(2) コンクリート工学論文集

コンクリート工学論文集を電子公開する。

(3) 英文ジャーナル

英文ジャーナル “Journal of Advanced Concrete Technology” を電子公開する。

7. 広報事業

(1) 広報活動

公正で開かれた活動を推進するため、本学会の活動状況、運営内容、財務資料等を積極的に公開する。社会一般に向けた啓蒙活動として、情報コミュニケーション委員会において JCI ホームページの内容向上を図るとともに、会誌「コンクリート工学」、パンフレット (和文、英文) 等により本学会の活動について広報活動を行う。

また、コンクリート女性連携促進検討委員会を設置し、コンクリートに関わる女性の連携を促進させる具体的な仕組みを検討する。

(2) 普及活動

普及委員会のもとに以下の専門委員会を設置し活動する。

1) マスコンクリートソフト普及委員会

温度応力に加え湿気移動を考慮した乾燥収縮および自己収縮を考慮した 3 次元応力解析ソフト JCMAC 3、初期応力を考慮した 3 次元保有耐力解析ソフト JCMAC 3-U、2 次元温度応力解析およびひび割れ幅解析ソフト JCMAC 1・2 のサポートならびに普及を図る。令和 6 年度の主な活動は以下のとおりである。

① JCMAC 1・2、JCMAC 3、JCMAC 3-U のバージョンアップ

・ JCMAC 3-U : 「2023 年度版土木学会コンクリート標準示方書」対応および「ひび割れ制御指針」の次回改訂に合わせたプログラム修正

② JCMAC 3 初級セミナー (1 回) の開催

③ JCMAC 3-U 英語版の海外への普及活動

・台湾でのセミナーの開催 (秋頃を予定)

④ JCMAC 3-PS の開発

・ JCMAC 3-U にプレストレスの導入を考慮できる機能を追加したバージョンをリリース

⑤ YouTube を利用した JCMAC 3 Tutorial 動画の作成・公開

⑥ JCMAC 1・2、JCMAC 3 および JCMAC 3-U のサポート

2) コンクリートのひび割れ調査、補修・補強指針普及委員会

令和 4 年度に改訂された「コンクリートのひび割れ調査、補修・補強指針 2022」の講習会の実施等により同指針の普及を図る。主な活動は以下のとおりである。

① 国内講習会 (名古屋、福井、宮崎) の実施

② 海外講習会 (フィリピン) の実施

③ 実構造物のひび割れ実態調査 (沖縄) の実施

- ④2022年版指針本体に対する質問や修正指摘等への対応
- ⑤2022年版指針マニション編に対する質問や修正指摘等への対応
- ⑥2022年版指針ひび割れ判定ソフト Web版に対する質問や修正指摘等への対応

3) コンクリート構造物の長期性能シミュレーションソフト普及委員会

現行の「コンクリート構造物の長期性能シミュレーションソフト LECCA シリーズ」の普及活動に加え、LECCA シリーズをベースとした初学者向けの教育プログラムを作成する。また、コンクリート構造物の耐久設計や維持管理に関する知識と経験が不足している初学者向けの講習会や大学等での講義への活用方法を検討するとともに、その成果を教育プログラムの改良に繋げる。

(3) 電子情報化

情報コミュニケーション委員会において、本学会ホームページのコンテンツの企画立案および運営管理を継続的に行い、定期的な更新による情報発信および広報活動を主な事業活動とする。主な活動は以下のとおりである。

- 1) 月刊コンクリート技術（一般向けコンテンツ）を制作、公開する。
- 2) メールニュースを作成し配信する。
- 3) 研究委員会報告書を会員専用ページに電子公開する。
- 4) 過去コンテンツ（増刊コンクリート技術等）の管理を継続する。
- 5) ホームページを活用したコンクリートに関する技術や研究成果の普及に向けた取り組みを行う。
- 6) ホームページを活用した広報に関する方策を検討する。
- 7) ホームページの追加リニューアル内容（英語版 HP）を検討する。

(4) JCI 創立 60 周年記念事業

令和 7 年 7 月に開催される JCI 創立 60 周年記念事業に向けて、実行委員会のもとに、総務部会、記念誌発行部会および特別講演部会を組織し具体的な当該記念事業の実施内容の決定および準備作業を行う。

8. 関連学会との協力活動

「(一社)防災学術連携体」および日本原子力学会主催「福島復興・廃炉推進に貢献する学協会連絡会議」に委員を派遣するほか、「建設系 7 学会会長会議」に参画するなど、他学協会との協力活動を行う。また、令和 6 年度は、「建設系 CPD 協議会」の会長および同事務局を担当する。

9. 助成金事業

助成金制度規則に基づき、コンクリートに関する研究助成およびコンクリートに関する国際会議参加助成を行う。

[公 2 講演会等事業]

1. 年次大会事業

(1) コンクリート工学年次大会

コンクリート工学年次大会 2024 (松山) を 6 月 26 日 (水) ~ 28 日 (金) の 3 日間、アイテムえひめ (愛媛国際貿易センター) で開催する。

- 1) 第 46 回コンクリート工学講演会
- 2) 生コンセミナー：テーマ「どうする 5308!? これからの

行方一地方から見た JIS A 5308 と人材育成—」

- 3) コンクリート構造物診断セミナー：テーマ「地方発コンクリート構造物維持管理の将来に向けて」
- 4) 特別講演会：講師 大江慎一氏 (本州四国連絡高速道路)
 - 演題「夢の懸け橋は今! (本州四国連絡橋の構想から現在、そしてこれから)」
- 5) 見学会：2 コースを予定
- 6) 懇親会：ANA クラウンホテル松山

2. 講演会, 講習会, シンポジウム等

(1) コンクリート技術講習会

2024 年度コンクリート技術講習会を 10 月~11 月にかけてオンライン (オンデマンド形式) で実施する。

(2) 研究委員会

研究委員会所管の報告会を次のとおり開催する。

- 1) 「セメント・コンクリートの環境影響評価に関する研究委員会」報告会
 - 日 時：9 月
 - 場 所：東京都内 (ハイブリッド形式)
- 2) 「コンクリート中の鉄筋腐食の統一的な取扱いに関する研究委員会」報告会
 - 日 時：9 月 (東京会場)
 - 場 所：未定
 - 日 時：9 月 (大阪会場)
 - 場 所：未定

(3) 技術委員会

技術委員会所管の報告会を次のとおり開催する。

- 1) 「コンクリート基本技術調査委員会準備工 WG」報告会
 - 日 時：未定
 - 場 所：未定
- 2) 「危急存亡状態のコンクリート構造物対応委員会」報告会
 - 日 時：7 月 1 日 (月)
 - 場 所：本学会会議室 (ハイブリッド形式)

(4) 普及委員会

普及委員会所管の講習会、セミナーを次のとおり開催する。

- 1) 「コンクリートのひび割れ調査、補修・補強指針 2022」講習会
 - 日 時：7 月 5 日 (金)
 - 場 所：福井市地域交流プラザ
 - 日 時：未定 (宮崎会場)
 - 場 所：未定
 - 日 時：未定 (名古屋会場)
 - 場 所：未定
- 2) 「マスコンクリートソフト普及委員会」JCMAC 3 初級者セミナー
 - 日 時：未定
 - 場 所：未定
- 3) コンクリート構造物の長期性能シミュレーションソフト (LECCA シリーズ) 講習会
 - 日 時：未定
 - 場 所：未定

(5) 支 部

支部主催の講演会、講習会、報告会、見学会を次のとおり開催する。(確定している項目のみ記載)

- 1) (北海道支部)「コンクリートの日 in HOKKAIDO」見

- 学会
- 日 時：未定
場 所：未定
- 2) (北海道支部)「コンクリートの日 in HOKKAIDO」出前講座
日 時：未定
場 所：未定
- 3) (東北支部)第19回コンクリート診断技術研鑽のための勉強会
日 時：未定
場 所：未定
- 4) (関東支部)支部総会特別講演会
日 時：5月31日(金)
場 所：都市センターホテル
演 題：コンクリートに関わる教育や広報について(仮題)
講 師：細田暁氏(横浜国立大学), 松永昭吾氏(インフラ・ラボ)
- 5) (中部支部)支部活動報告会特別講演会
日 時：5月31日(金)
場 所：名古屋大学 ES 総合館 1階 ES ホール(ハイブリッド形式)
演 題：高性能繊維補強コンクリートの利用と課題
講 師：内田裕市氏(岐阜大学)
- 6) (中部支部)支部総会特別講演会
日 時：令和7年1月
場 所：未定
演 題：未定
講 師：未定
- 7) (近畿支部)支部総会特別講演会
日 時：5月28日(火)
場 所：未定
演 題：未定
講 師：未定
- 8) (近畿支部)学生体験セミナー
日 時：8月頃
場 所：未定
演 題：未定
講 師：未定
- 9) (近畿支部)会員向け見学会
日 時：10月頃
場 所：未定
演 題：未定
講 師：未定
- 10) (中国支部)支部総会特別講演会
日 時：5月27日(月)
場 所：広島市
演 題：未定
講 師：上田隆雄氏(四国支部長・徳島大学)
- 11) (中国支部)技術・研究交流会
日 時：11月~12月
場 所：未定
- 12) (中国支部)「わかりやすいコンクリート」講習会
日 時：12月
場 所：鳥取県
- 13) (中国支部)「中国地方のコンクリート系建造物の調査

- 研究委員会」報告会
日 時：令和7年3月
場 所：未定
- 14) (四国支部)支部総会特別講演会
日 時：4月16日(火)
場 所：ホテル パールガーデン
演 題：未定
講 師：未定
- 15) (四国支部)「四国におけるコンクリート教育に関する研究委員会」活動報告
日 時：4月16日(火)
場 所：ホテル パールガーデン
演 題：中心圧縮を受ける鉄筋コンクリート供試体の実験(仮題)
講 師：未定
- 16) (四国支部)コンクリート工の生産性向上のためのトラックアジテータ車の高性能化に関する研究委員会成果報告会
日 時：未定
場 所：未定
- 17) (四国支部)生コンセミナー in 愛媛
日 時：未定
場 所：未定
- 18) (四国支部)コンクリート技術研修会
日 時：未定
場 所：未定
- 19) (四国支部)コンクリートに関する技術情報交換会
日 時：上期1回, 下期1回
場 所：オンライン(ライブ形式)
- 20) (四国支部)見学会
日 時：10月~11月
場 所：未定
- 21) (九州支部)支部活動報告会特別講演会
日 時：4月19日(金)
場 所：リファレンス大博多ビル
演 題：立野ダムコンクリートの創意工夫について
講 師：岩川真一氏(西松建設)
- 22) (九州支部)九州支部第6回学生シンポジウム
日 時：未定
場 所：未定
- 23) (九州支部)技術者勉強会(若手研究者の会)
日 時：未定
場 所：未定

[公3 表彰事業]

1. 学 会 賞

以下の5つの学会賞を贈り表彰する。

(1) 論 文 賞

本学会刊行物に発表された論文のうち、コンクリートに関する学術・技術の進歩発展に顕著な貢献をしたと認められた論文を対象に、その著者に対し「日本コンクリート工学会賞(論文賞)」を贈り表彰する。

(2) 技 術 賞

本学会刊行物に発表された論文あるいは報告等のうち、コンクリートに関する技術の進歩発展に顕著な貢献をしたと認められた論文あるいは報告等を対象に、その著者に対し「同(技術

賞)」を贈り表彰する。

(3) 作品賞

コンクリートで構成され、美的価値や技術的価値、創造性および環境との調和において、優れている造形物を対象に、その構築に貢献した者に「同（作品賞）」を贈り表彰する。

(4) 奨励賞

本学会刊行物に発表された論文のうち、コンクリートに関する独創性、萌芽性および将来性のある優れた論文を対象に、40歳未満の著者に「同（奨励賞）」を贈り表彰する。

(5) 功労賞

本学会事業の発展のために長年にわたり顕著な貢献のあった会員に「同（功労賞）」を贈り表彰する。

2. 支部表彰

以下の5つの支部において支部表彰を行う。

(1) 北海道支部

支部功績賞、支部優秀学生賞の対象者を募集し、支部のコンクリート工学の発展に著しい貢献をした者および優れた研究成果をあげた学生を対象にそれぞれ表彰する。

(2) 東北支部

支部表彰規程に基づき、優秀な作品や功績のあった会員を対象に表彰する。

(3) 近畿支部

支部奨励賞の対象者を募集し、コンクリートに関する優れた論文あるいは報告の40歳未満の著者を対象に表彰する。

(4) 中国支部

コンクリートに関する技術の進歩発展に顕著な貢献をなした中国支部所属の個人を対象に「コンクリートマイスター」の認定者とする。

(5) 九州支部

九州・沖縄地区の大学、大学院、高等専門学校において、コンクリートに関する優れた研究成果を上げた卒業生、修了生に支部長賞を与える。

II 収益事業

[収1 資格付与事業]

1. コンクリート技士・コンクリート主任技士資格制度事業

(1) コンクリート技士・主任技士試験

コンクリート技士・主任技士試験を11月24日（日）、全国9都市において実施する。

(2) コンクリート技士・主任技士研修

コンクリート技士制度に基づいて、コンクリート技士・主任技士研修を、登録有効期間（4年間）満了となるコンクリート技士・主任技士登録者および未登録者を対象として、eラーニングにて、8月22日（木）から9月30日（月）まで実施する。

(3) コンクリート技士・主任技士の登録

コンクリート技士制度に基づいて、コンクリート技士・主任技士研修を受講し、登録有効期間（4年間）満了となる登録者の更新および未登録者の登録を行う。また、コンクリート技士・主任技士試験合格者の申請により登録を行う。

2. コンクリート診断士資格制度事業

(1) コンクリート診断士講習

コンクリート診断士講習をeラーニングにて、4月5日（金）から5月20日（月）まで実施する。

(2) コンクリート診断士試験

コンクリート診断士試験を7月21日（日）、全国9都市において実施する。

(3) コンクリート診断士研修

コンクリート診断士制度に基づいて、コンクリート診断士研修を、登録有効期間（4年間）満了となるコンクリート診断士登録者および未登録者を対象として、eラーニングにて10月に実施する。

(4) コンクリート診断士の登録

コンクリート診断士制度に基づいて、コンクリート診断士研修を受講し、登録有効期間（4年間）満了となる登録者の更新および未登録者の登録を行う。また、コンクリート診断士試験合格者の申請により登録を行う。

3. 資格・講習委員会

各資格関係委員会での検討内容を審議し、承認を行う。また、コンクリート技士・主任技士試験およびコンクリート診断士試験の合格者の内定を行い、理事会に付議する。その他、必要に応じて資格審査会の開催および国土交通省技術者資格の登録・更新を行う。

[収2 その他の収益事業]

1. コンクリートテクノプラザ2024

コンクリート工学年次大会2024（松山）と併行して、コンクリート関連企業および団体による、新製品・新技術等の紹介と情報交換を行う。

III その他

1. 名誉会員の表彰

本学会の目的達成に多大な貢献をした会員に、名誉会員の称号を贈る。

2. 終身会員およびフェロー会員の表彰

コンクリート工学の見識に優れ、本学会の活動を長年にわたり支援した会員に終身会員の称号を、また、コンクリート工学の見識に優れ、責任ある立場で長年にわたり指導的役割を果たし社会に貢献した会員にフェロー会員の称号を贈る。

3. 定款・規則改定

定款および学会規則の改定に関して審議し、理事会に付議する。

4. 選挙管理委員会

代議員の任期満了に伴い、代議員選挙規則に基づき、代議員選挙を実施する。

令和6年度 収支予算書（正味財産増減計算予算）

（令和6年4月1日から令和7年3月31日まで）

（単位：千円）

勘定科目	公益目的事業会計	収益事業会計	法人会計	合計
I. 経常増減の部				
1. 経常収益				
(1) 基本財産運用益				
基本財産受取利息	5			5
特定資産受取利息		2	1	3
基本財産運用益計	5	2	1	8
(2) 受取会費				
受取入金	215		215	430
受取会費	46 955		46 955	93 910
受取会費計	47 170		47 170	94 340
(3) 事業収益				
受託研究事業収益	13 407			13 407
出版事業収益	37 160			37 160
会誌発行事業収益	4 450			4 450
広報事業収益	21 036			21 036
年次大会事業収益	20 250			20 250
講演会等事業収益	17 396			17 396
国際会議事業収益				
技士・主任技士事業収益		401 254		401 254
診断士事業収益		186 389		186 389
テクノプラザ他事業収益		39 545		39 545
一般寄付金収入				
受取寄付金振替額	2 526			2 526
事業収益計	116 225	627 188		743 413
(4) その他収益				
受取利息			7	7
受入送料				
印税収益	2 000			2 000
雑収益	948		1 068	2 016
その他収益計	2 948		1 075	4 023
経常収益計	166 348	627 190	48 246	841 784
2. 経常費用				
(1) 事業費				
調査研究事業費	73 719			73 719
標準化事業費	20 781			20 781
国際化事業費	24 712			24 712
受託研究事業費	14 093			14 093
出版事業費	42 968			42 968
会誌発行事業費	99 168			99 168
広報事業費	51 057			51 057
助成金事業費	13 927			13 927
年次大会事業費	71 180			71 180
講演会等事業費	38 084			38 084
国際会議事業費				
表彰事業費	14 979			14 979
技士・主任技士事業費		194 399		194 399
診断士事業費		141 093		141 093
テクノプラザ他事業費		17 805		17 805
事業費計	464 668	353 297		817 965
(2) 管理費				
人件費			15 695	15 695
会議費			15 974	15 974
事務費			15 965	15 965
管理費計			47 634	47 634
経常費用計	464 668	353 297	47 634	865 599
当期経常増減額	▲298 320	273 893	612	▲23 815
II. 経常外増減の部				
1. 経常外収益				
経常外収益計				
2. 経常外費用				
固定資産除却損				
経常外費用計				
当期経常外増減額				
他会計振替額	250 000	▲250 000		
当期正味財産増減額	▲48 320	23 893	612	▲23 815

公益目的事業比率 53.7%（公益目的事業会計経常費用計／経常費用合計）